

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成26年6月19日

【事業年度】 第131期(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

【会社名】 日本合成化学工業株式会社

【英訳名】 The Nippon Synthetic Chemical Industry Co., Ltd.

【代表者の役職氏名】 取締役社長 木 村 勝 美

【本店の所在の場所】 大阪市北区小松原町2番4号

【電話番号】 大阪06(7711)5408(経理部)

【事務連絡者氏名】 執行役員 経理部長 光 本 昌 夫

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝浦三丁目9番1号 東京支社

【電話番号】 東京03(6436)2800(総務部)

【事務連絡者氏名】 東京支社 総務部長 市 村 雅 則

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所

(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第127期	第128期	第129期	第130期	第131期
決算年月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月
売上高 (百万円)	90,086	91,260	87,243	91,976	111,151
経常利益 (百万円)	10,012	9,460	6,763	12,375	16,712
当期純利益 (百万円)	5,753	6,131	3,154	8,158	8,018
包括利益 (百万円)	—	4,065	2,433	10,742	13,013
純資産額 (百万円)	53,987	54,951	55,996	65,444	76,770
総資産額 (百万円)	106,696	97,857	99,761	112,180	130,107
1株当たり純資産額 (円)	538.54	564.07	574.83	671.84	788.11
1株当たり当期純利益 (円)	59.06	62.94	32.38	83.75	82.32
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	-	—	-
自己資本比率 (%)	49.2	56.2	56.1	58.3	59.0
自己資本利益率 (%)	11.6	11.4	5.7	13.4	11.3
株価収益率 (倍)	10.9	8.2	15.7	10.0	9.0
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	18,272	14,132	9,223	16,365	14,150
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	4,509	7,761	8,575	10,557	20,033
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	10,621	9,844	2,872	3,319	1,996
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	11,807	8,005	5,637	8,677	5,744
従業員数 (名)	1,592	1,583	1,584	1,625	1,665

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第127期	第128期	第129期	第130期	第131期
決算年月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月	平成26年 3 月
売上高 (百万円)	60,350	57,160	54,870	59,113	64,149
経常利益 (百万円)	7,799	5,815	3,034	7,526	10,131
当期純利益 (百万円)	4,942	3,683	893	5,011	3,556
資本金 (百万円)	17,989	17,989	17,989	17,989	17,989
発行済株式総数 (千株)	98,369	98,369	98,369	98,369	98,369
純資産額 (百万円)	50,380	52,903	52,567	56,692	58,678
総資産額 (百万円)	86,031	82,538	84,732	88,524	91,252
1株当たり純資産額 (円)	517.17	543.08	539.66	582.01	602.43
1株当たり配当額 (円)	10.00	12.00	12.00	15.00	18.00
(内1株当たり中間配当額)	(4.00)	(5.00)	(6.00)	(6.00)	(9.00)
1株当たり当期純利益 (円)	50.74	37.81	9.18	51.45	36.51
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	-	-
自己資本比率 (%)	58.6	64.1	62.0	64.0	64.3
自己資本利益率 (%)	10.2	7.1	1.7	9.2	6.2
株価収益率 (倍)	12.7	13.6	55.5	16.3	20.3
配当性向 (%)	19.7	31.7	130.8	29.2	49.3
従業員数 (名)	1,009	1,003	1,007	1,024	1,037

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【沿革】

昭和2年に合成酢酸の生産を目的に日本醋酸製造(株)他3社の共同出資により設立されて以来、酢酸誘導品を中心とした有機化学製品のメーカーとして、現在に至っております。

年月	沿革
昭和2年4月	資本金20万円をもって株式会社日本合成化学研究所を設立。
昭和3年4月	大垣工場にて合成酢酸の生産開始。
昭和3年10月	社名を日本合成化学工業株式会社と改称。
昭和14年7月	熊本工場の建設に着手。
昭和14年11月	東京出張所(現・東京支社)設置。
昭和24年5月	東京証券取引所・大阪証券取引所に上場。
昭和25年7月	熊本工場に酢酸ビニルモノマー、ゴーセノール(ポリビニルアルコール、PVOH)設備建設。
昭和26年7月	中央研究所設置。
昭和35年12月	大垣工場にてケテン誘導品生産開始。
昭和38年10月	水島石油化学コンビナートに進出するため三菱化成工業株式会社(現・三菱化学(株))と提携し同社と合併にて水島合成化学工業株式会社を設立。
昭和39年10月	水島合成化学工業株式会社にて酢酸、酢酸エチルの生産開始。
昭和42年10月	水島合成化学工業株式会社にてゴーセノール(ポリビニルアルコール、PVOH)の生産開始。
昭和44年4月	水島合成化学工業株式会社にて酢酸ビニルモノマーおよびエチレン酢ビ共重合系樹脂の生産開始。
昭和46年4月	水島合成化学工業株式会社を吸収合併、当社水島工場となる。
昭和50年8月	熊本工場にてファインケミカル製品の生産開始。
昭和59年11月	水島工場にてソアノール(エチレン・ビニルアルコール共重合樹脂、EVOH)本格生産開始。
昭和60年8月	大垣工場にて日合アルフォ(ドライフィルムフォトレジスト)の生産開始。
昭和62年5月	米国に現地法人NIPPON GOHSEI (U.S.A.) Co., Ltd.を設立。
平成5年4月	大垣工場にて日合偏光板・日合位相差板(液晶表示部材)の生産開始。
平成6年6月	米国に現地法人NOLTEX L.L.C.を設立。
平成8年5月	米国に現地法人SOARUS L.L.C.を設立し、ソアノール(エチレン・ビニルアルコール共重合樹脂、EVOH)の販売拡充。
平成8年7月	ドイツに現地法人NIPPON GOHSEI Europe GmbHを設立。
平成8年8月	シンガポールに現地法人NIPPON GOHSEI Singapore Pte Ltd.を設立。
平成8年10月	株式会社クラレと合併でシンガポールに現地法人POVAL ASIA Pte Ltd.を設立。
平成9年9月	米国のモートン・インターナショナル社と合併でニチゴー・モートン株式会社を設立しドライフィルムフォトレジストの事業を拡充。
平成9年12月	加工技術開発センターを設立。
平成13年3月	英国に現地法人NIPPON GOHSEI UK Ltd.を設立。
平成15年3月	OPLフィルム(光学用ポリビニルアルコールフィルム、光学用PVOHフィルム)本格生産開始。
平成16年11月	クラリアントジャパン株式会社からクラリアントポリマー株式会社の全株式取得により完全子会社化。クラリアントポリマー株式会社は平成17年1月ニチゴー・モビニール株式会社に商号変更。
平成17年10月	機能フィルムセンターを設立。
平成18年10月	中国に上海事務所を設立。
平成20年1月	シンガポールの現地法人NIPPON GOHSEI Singapore Pte Ltd.が保有していたPOVAL ASIA Pte Ltd.の全株式を株式会社クラレに譲渡。
平成20年2月	熊本工場にてOPLフィルム(光学用ポリビニルアルコールフィルム、光学用PVOHフィルム)の生産開始。
	シンガポールの現地法人NIPPON GOHSEI Singapore Pte Ltd.を清算のための手続きを開始。
平成21年3月	NIPPON GOHSEI Singapore Pte Ltd.の清算を結了。
平成21年4月	ニチゴー・モビニール株式会社を吸収合併。
平成22年9月	中国・上海事務所を現地法人化し、日之高(上海)商貿有限公司を設立。
平成22年10月	タイ・バンコクにNIPPON GOHSEI (THAILAND) CO., LTD.を設立。
平成25年4月	ニチゴー・モートン株式会社の全株式を台湾の長興化学工業股份有限公司に譲渡。

3 【事業の内容】

当社グループは、連結財務諸表提出会社（日本合成化学工業㈱（以下「当社」という））、親会社である㈱三菱ケミカルホールディングス、三菱化学㈱、子会社15社および関連会社1社で構成されており、合成樹脂製品および有機合成製品の製造・販売を主な事業としております。主な事業内容と、各関係会社等の当該事業に係る位置付け及びセグメントとの関連は次のとおりであります。

〔合成樹脂〕

当社はPVOH樹脂およびPVOHフィルム、EVOH樹脂、粘・接着樹脂、機能性コーティング樹脂の製造・販売をしております。大成化薬㈱は、当社製品を販売しております。NIPPON GOHSEI (U.S.A.) Co., Ltd.は、米国における関係会社への出資、資金の貸付および北米における市場調査を行っております。NOLTEX L.L.C.は、EVOH樹脂を製造・販売しております。SOARUS L.L.C.は、北米、南米における当社グループ製品の販売および市場調査を行っております。NIPPON GOHSEI Europe GmbHは、ヨーロッパにおける当社グループ製品の販売および市場調査を行っております。NIPPON GOHSEI UK Ltd.は、EVOH樹脂の製造・販売および当社製品の販売を行っております。日之高（上海）商貿有限公司は、中国における当社グループ製品の販売および市場調査を行っております。NIPPON GOHSEI (THAILAND) CO., LTD.は、インドを含む東南アジア地域における当社グループ製品の販売および市場調査を行っております。

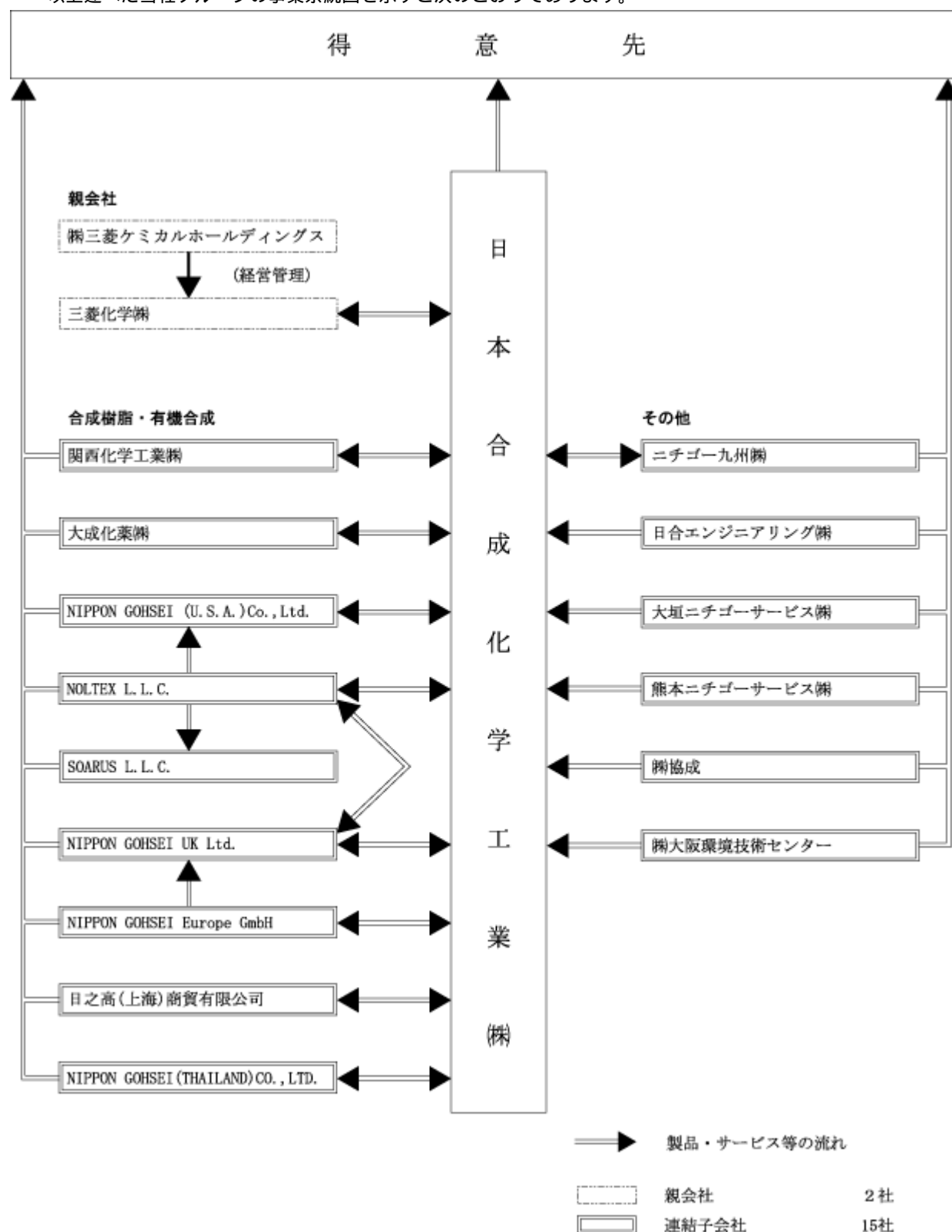
〔有機合成〕

当社は工業薬品、ファインケミカル製品の製造・販売をしております。大成化薬㈱は、当社製品および化学品の販売をしております。関西化学工業㈱は、フィルム製品の製造・販売をしております。

〔その他〕

大垣ニチゴサービス㈱、熊本ニチゴサービス㈱は、当社を中心にした物流サービスを行っております。日合エンジニアリング㈱は、設備工事・保守を行っており、当社からも受注しております。ニチゴ九州㈱は、化学品・建材の販売、設備工事・保守、環境分析等を行って、当社からも受注しております。㈱協成は、保険代理店業務を行っております。㈱大阪環境技術センターは、環境分析等を行っております。

以上述べた当社グループの事業系統図を示すと次のとおりであります。



4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金又は 出資金 (百万円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有・被所有割合		関係内容	資金 援助 の有無
				所有割合 (%)	被所有割合 (%)		
(親会社)							
(株)三菱ケミカルホールディングス	東京都千代田区	50,000	グループ 会社の経営管理	—	50.9 (50.9)	—	無
三菱化学(株)	東京都千代田区	50,000	化学品	—	50.9	同社製品の購入、当社製品の販売 役員の兼任等 兼任2人 転籍1人	無
(連結子会社)							
大成化薬(株)	大阪市中央区	100	合成樹脂 有機合成	100.0 (15.7)	—	当社の販売代理店、原料の購入 役員の兼任等 兼任4人 転籍3人	無
関西化学工業(株)	香川県 善通寺市	366	有機合成	100.0 (24.2)	—	同社製品の購入 役員の兼任等 兼任3人 転籍3人 出向1人	有
NIPPON GOHSEI (U.S.A.) Co., Ltd.	米国	千米ドル 40,625	合成樹脂	100.0	—	米国における関係会社への出資、市場 調査、役員の兼任等 兼任3人 出向 1人	無
NOLTEX L.L.C.	米国	千米ドル 63,500	合成樹脂	100.0 (100.0)	—	当社ソアノールの製造技術供与 役員の兼任等 兼任3人 出向1人 債務保証	有
NIPPON GOHSEI Europe GmbH	ドイツ	千ユーロ 153	合成樹脂	100.0	—	欧州における当社製品の販売、市場調 査 役員の兼任等 兼任2人 出向1人	無
NIPPON GOHSEI UK Ltd.	英国	千ユーロ 74,906	合成樹脂	100.0	—	当社ソアノールの製造技術供与 役員の兼任等 兼任2人 出向1人 債務保証	有
SOARUS L.L.C.	米国	千米ドル 200	合成樹脂	83.9 (83.9)	—	米国におけるソアノールの販売 役員の兼任等 兼任2人	無
日之高(上海)商貿有限公司	中国	千米ドル 583	合成樹脂	100.0	—	中国における当社製品の販売、市場調 査 役員の兼任等 兼任4人 出向1人	有
NIPPON GOHSEI (THAILAND) CO., LTD.	タイ	千バーツ 23,000	合成樹脂	100.0	—	インドを含む東南アジアにおける当社 製品の販売、市場調査 役員の兼任等 兼任1人 出向1人	無
日合エンジニアリング(株)	岐阜県大垣市	30	その他	100.0	—	当社設備の建設、機械の製作・修理 役員の兼任等 兼任3人 転籍1人 出向1人	無
大垣ニチゴーサービス(株)	岐阜県大垣市	30	その他	100.0	—	包装・入出荷業務を委託 役員の兼任等 兼任4人 転籍1人 出向1人	無
熊本ニチゴーサービス(株)	熊本県宇土市	30	その他	100.0	—	包装・入出荷業務、当社熊本工場およ び熊本地区関係会社の事務を委託 役員の兼任等 兼任3人 出向1人	無
ニチゴー九州(株)	熊本県宇土市	100	その他	100.0	—	当社の販売代理店、原料の供給、当社 設備の建設、機械の製作・修理 役員の兼任等 兼任3人 転籍1人 出向1人	無
(株)協成	大阪市北区	40.8	その他	100.0	—	保険代理店 役員の兼任等 兼任4人 転籍1人	無
(株)大阪環境技術センタ-	大阪府茨木市	50	その他	100.0	—	環境分析、物質分析を委託 役員の兼任等 兼任4人 転籍1人	無

(注) 1 主要な事業の内容欄には、セグメント情報に記載された名称を記載しております。(親会社を除く。)

2 大成化薬(株)、NIPPON GOHSEI(U.S.A.) Co., Ltd.、NOLTEX L.L.C.、NIPPON GOHSEI UK Ltd.は、特定子会社に該当しております。

3 上記のうち親会社である(株)三菱ケミカルホールディングス及び三菱化学(株)は有価証券報告書を提出しております。

4 上記のうち親会社である(株)三菱ケミカルホールディングスは三菱化学(株)の完全親会社であります。

5 議決権の所有割合欄及び被所有割合欄の()は、間接所有割合(内数)であります。

6 「役員の兼任等」の人数は、次の区分によって算定しております。

兼任.....役員の兼任数

転籍.....元役員及び元社員の派遣役員の人数

出向.....社員の派遣役員の人数

- 7 売上高(連結会社相互間の内部売上高を除く。)が連結売上高の10%を超える連結子会社の主要な損益情報等は次のとおりであります。

会社名	売上高 (百万円)	経常利益 (百万円)	当期純利益 (百万円)	純資産額 (百万円)	総資産額 (百万円)
大成化薬㈱	25,383	234	135	1,350	8,729
NIPPON GOHSEI UK Ltd.	17,549	2,118	1,750	14,844	21,229
NIPPON GOHSEI(U.S.A.) Co., Ltd.	15,931	4,116	2,620	13,421	24,263

- 8 資金援助の有無欄は、提出会社からの貸付ならびに保証債務の有無について記載しております。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成26年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
合成樹脂	1,156 (54)
有機合成	265 (29)
その他	220 (115)
全社(共通)	24
合計	1,665 (198)

- (注) 1 従業員数は、委任型執行役員等、当社グループから当社グループ外への出向者を除き、当社グループ外からの当社グループへの出向者を含む就業人員であります。
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
3 臨時従業員には、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いています。

(2) 提出会社の状況

平成26年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
1,037	42.4	20.9	7,336

セグメントの名称	従業員数(名)
合成樹脂	875
有機合成	138
その他	—
全社(共通)	24
合計	1,037

- (注) 1 従業員数は、委任型執行役員等、当社から他社への出向者を除き、他社から当社への出向者を含む就業人員であります。
2 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。

(3) 労働組合の状況

当社には、日本合成化学労働組合が組織されており、上部団体であるJEC連合に属しております。

当社グループにおいては、日本合成化学労働組合を中核として協議会方式によるG(ジー)ネット・フォーラムを組織しております。

労使関係については、特に記載すべき事項はありません。

第2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、アベノミクス効果への期待感から円安・株高が進行し、内需については公的需要の拡大や消費者マインドの改善、設備投資の持ち直しや消費増税前の駆け込み需要などもあり、着実な回復基調にありました。また、外需についても円安を追い風に先進国向けを中心とした輸出回復により製造業の業績改善が進むなど、全体的に景気回復のすそ野が広がる中で推移しました。しかし、先行きについては、消費増税後の腰折れや中国など新興国経済の停滞、原燃料価格の高止まりなどが懸念されます。

当社グループは、こうした事業環境のもとスペシャリティ製品の一部伸長や円安による為替効果ならびに一部連結子会社の決算期変更（以下：決算期変更）の影響などもあり全体的な業績は改善しました。

当社グループは、2011年度よりスタートした中期経営計画「Double 1.5（ダブルフィフティーン）」（2011年度～2015年度）に掲げた目標を達成するためにコア事業の積極的拡大、第三の柱構築の加速などに引き続き取り組み、計画に基づいた投資や拡販を進めております。

その結果、当連結会計年度の連結業績につきましては、売上高は前期に比べ191億75百万円増加し、1,111億51百万円（前期比20.8%増）となりました。営業利益は前期に比べ43億70百万円増加し、162億29百万円（同36.9%増）となり、経常利益は前期に比べ43億37百万円増加し、167億12百万円（同35.0%増）となりました。当期純利益は、過年度法人税等を26億12百万円追加計上したことにより前期に比べ1億40百万円減少し、80億18百万円（同1.7%減）となりました。

なお、上記金額に含まれる決算期変更による影響額は、売上高109億20百万円、営業利益14億15百万円、経常利益13億87百万円、当期純利益9億83百万円です。

セグメントの業績は、次のとおりであり、製品動向の前期比較は12か月ベースで記載しております。

< 合成樹脂 >

PVOH樹脂「ゴーセノール」は、汎用・スペシャリティ分野とも販売数量は下半期の寄与もあり前期に比べ増加し、売上高も輸出に係る円安効果が大きく前期に比べ増加しました。二次加工分野の機能フィルムは、光学用途の「OPLフィルム」が5系広幅設備のフル寄与もあり、売上高は前期に比べ増加しました。

EVOH樹脂「ソアノール」は、食品包装用途を中心に販売数量は前期並みに留まりましたが、海外子会社の円安による為替換算差が大きく、売上高は前期に比べ増加しました。

粘・接着樹脂および機能性コーティング樹脂を中核とするスペシャリティポリマーは、エマルジョン製品は健闘しましたが、「コーボニール」が伸び悩んだこともあり売上高は前期に比べ減少しました。

以上の結果、合成樹脂の売上高は、決算期変更による影響額84億88百万円を含め835億60百万円（前期比24.5%増）となりました。セグメント利益（営業利益）は、原燃料コストの増加や労務費・修繕費等の固定費増などの減益要因はありましたが、「OPLフィルム」の販売数量増および円安効果ならびに減価償却方法の変更による償却負担減などの増益要因が大きく、決算期変更による影響額13億90百万円を含め、前期に比べ45億69百万円増加し、164億7百万円（同38.6%増）となりました。

<有機合成>

酢酸、酢酸ビニルモノマー等の工業薬品および酢酸誘導体等のファインケミカル製品等を中核とする有機合成の売上高は、工業薬品類の販売数量減はありましたが、ファインケミカル製品の一部販売数量増に加え、決算期変更による影響額24億32百万円を含めた結果、237億54百万円（前期比15.1%増）となりました。セグメント利益（営業利益）は、決算期変更による影響額24百万円の加算はありましたが、工業薬品類の販売数量減および原燃料高による売買価格スプレッドの縮小などの減益要因が大きく、前期に比べ1億24百万円減少し、49百万円（同71.3%減）となりました。

報告セグメントの売上高は、決算期変更による影響額109億20百万円を含め1,073億14百万円（前期比22.3%増）となり、セグメント利益（営業利益）は決算期変更による影響額14億15百万円を含め164億57百万円（同37.0%増）となりました。

<その他>

設備工事、保守、環境分析、物流サービス事業等を主体とするその他の売上高は、38億36百万円（前期比9.1%減）となり、セグメント利益（営業利益）は前期に比べ25百万円減少し、2億18百万円（同10.3%減）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末より29億33百万円減少し、57億44百万円となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況と主な内容は次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益161億55百万円、減価償却費71億29百万円、売上債権の減少12億58百万円などの資金増加要因に対し、たな卸資産の増加29億19百万円、仕入債務の減少13億33百万円、法人税等の支払額59億42百万円などの資金減少要因により、営業活動によるキャッシュ・フローは141億50百万円の収入となりました。前期に比べ収入が22億15百万円減少しました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

固定資産の取得による支出202億63百万円などにより、投資活動によるキャッシュ・フローは200億33百万円の支出となりました。前期に比べ支出が94億76百万円増加しました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金の純増による収入38億76百万円、配当金の支払17億53百万円などにより、財務活動によるキャッシュ・フローは19億96百万円の収入となりました。前期に比べ支出が53億15百万円減少しました。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
合成樹脂	86,676	21.3
有機合成	13,452	3.0
その他	—	—
合計	100,129	18.5

- (注) 1 金額は売価換算値で表示しております。
2 その他は周辺サービス事業その他であり、生産実績による表示は適切でないため金額表示はしていません。
3 上記の金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 受注状況

受注生産は行っておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	金額(百万円)	前年同期比(%)
合成樹脂	83,560	24.5
有機合成	23,754	15.1
その他	3,836	9.1
合計	111,151	20.8

- (注) 1 セグメント間取引については、相殺消去しております。
2 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度		当連結会計年度	
	金額(百万円)	割合(%)	金額(百万円)	割合(%)
三菱商事(株)	11,615	12.6	12,131	10.9

- 3 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

3 【対処すべき課題】

当社グループは、2025年のありたい姿を「当社グループの強みを活かしたスペシャリティ製品を提供することで、持続可能な社会に貢献するとともに、グローバル市場で存在感のある企業でありたい」と定め、この姿を達成するための中期経営計画「Double 1 5」（2011年度～2015年度）に取り組んでいます。引き続き「Double 1 5」に定めた取り組みを着実に実行し、2015年度に連結売上高1,300億円、営業利益200億円、営業利益率15%以上の達成を目指します。「Double 1 5」での主な取り組みは以下の通りです。

<中長期的な会社の経営戦略>

コア事業の積極的拡大

コア事業である光学用途の「OPLフィルム」およびEVOH樹脂「ソアノール」は、一層の品質向上と国内外市場での拡販を図ります。また、今後の需要増加に対応するために、既に着手している設備増強を確実に進めます。

第三の柱構築の加速と新製品開発促進に向けた研究開発の強化

粘・接着樹脂および機能性コーティング樹脂は、「コーポニール」「紫光」の情報電子分野を中心とした国内外市場での拡販、粘着製品の欧米市場開発を進めます。

世界初のアモルファスビニルアルコール系樹脂「ニチゴーGポリマー」は、水溶性不織布用途に続き、食品包装材料やエネルギー関連分野などでの実需化を図ります。

光学シート「ORGA（オルガ）」は、独自の特長を活かし、厚膜の光学パネルおよびタッチパネルなどへの採用を目指します。

研究開発は、引き続きコア製品の更なる品質向上、第三の柱構築のための製品展開の拡大、「環境」や「エネルギー」をターゲットに次代を担う新製品・新用途の開発に取り組めます。現在、2014年度第4四半期の完成を目指し、中央研究所内に先端研究棟を建設中です。当該先端研究棟を活用し、研究開発のレベルアップ、製品・用途開発の迅速化を図ります。

競争力の強化

成長分野への積極的な投資、生産基盤強化のために効率的な維持的投資、事業の選択と集中、固定費削減等によるコスト競争力を強化します。

海外展開の加速

欧米市場に加えて新興国市場への製品拡販を図るため、マーケティングやテクニカルサポートを充実・迅速化します。また、アジア地域での現地生産も視野に入れた事業展開を加速します。このためにグローバル人材の育成プログラムを実行します。

安全・環境・品質を担保するための取り組み

安全・安定生産を実現し、万全な品質保証体制を構築します。また、レスポンシブル・ケア（環境と安全に関する自主管理）活動を推進し、地球温暖化問題に取り組めます。廃棄物・化学物質排出量の最少化や省資源・省エネルギー化を推進します。

<会社の対処すべき課題>

「Double 1 5」の基本方針を着実に実行することが経営の最重要課題と考えております。これに加えて、環境負荷の低減、経営環境変化への迅速対応、グローバル人材の育成、コスト削減を図り、今後の持続的な発展に取り組めます。

当社グループは経営の透明化、法令遵守を基本とした内部統制システムを運用し、社会から信頼される企業を目指します。

4 【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等について、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項には、以下のようなものがあります。

以下の事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

但し、業績、財政状態に影響を与える要素は、これらに限定されるものではありません。

(1) 経済状況

日本、北米、欧州、アジアの当社グループの主要市場における景気動向やそれに伴う需要の変動は当社グループの業績、財政状態に影響を与える可能性があります。

(2) 原燃料価格の変動

原油・ナフサ価格の大幅な変動があり販売価格への転嫁が困難な場合、当社グループの業績、財政状態に影響を与える可能性があります。

(3) 為替レートの変動

為替レートの変動は外貨建取引の売上高や原燃料価格、外貨建て資産・負債の円貨換算額に影響を与えます。外貨建取引は、変動リスクを回避するために社内規程に基づく為替予約を行い、短期的な変動の影響を最小限に留める努力を行っております。しかし、予測を超える大幅な変動は、当社グループの業績、財政状態に影響を与える可能性があります。

(4) 海外での事業展開

当社グループは現在、北米・欧州・アジアに生産および販売拠点を設置し、海外事業を展開しております。そのため、通常では予期しない各国の法規制・税制の変更、政治体制、組織的破壊活動等のリスクが内在しております。こうした事象の発生により、海外での事業活動に支障が生じ、当社グループの業績、財政状態に影響を与える可能性があります。

(5) 知的財産権

当社グループは、独自の技術とノウハウを蓄積しており、その保護に努めておりますが、当社グループが保有する知的財産権が第三者からの申立てにより無効とされる可能性、特定の国または地域では保護されない可能性、また、第三者が当社グループの知的財産権を使用した類似製品等の製造・販売を完全には防止できない可能性があります。一方、当社グループは、第三者の知的財産権を侵害することのないよう、細心の注意を払っておりますが、訴訟を提起される可能性があります。

(6) 訴訟関係

当社グループは、コンプライアンス経営を重視し、法令および社会的ルールへの遵守の徹底を図っておりますが、事業活動の中で訴訟の提起を受ける可能性があります。将来的に重大な訴訟が提起された場合は、当社グループの業績、財政状態に重大な影響を与える可能性があります。

(7) 有利子負債

当社グループは、設備投資に要する資金を自己資金および金融機関からの借入金により調達しております。当社グループは自己資本の充実に努めておりますが、今後、金利水準が変動した場合、当社グループの業績、財政状態に影響を与える可能性があります。

(8) 事故・災害等

当社グループは、製造設備の定期点検や自主管理活動の徹底などにより、設備事故等の未然防止に努めておりますが、設備トラブルに起因する事故、大規模な台風や地震等の自然災害などによる操業停止を完全に回避することは不可能であり、生産活動に著しい支障が生じた場合は、当社グループの業績、財政状態に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループ（当社及び連結子会社）の研究開発部門は、スペシャリティ事業の拡大を目指し、情報・光学、エネルギー、アメニティの3分野に注力し、市場ニーズ・新規市場を的確につかみながら競争力の高い製品づくりを進めております。

産学官連携も積極的に取り組んでおり、例えば新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）との共同研究で水素耐性に優れた素材の研究開発を進めております。

また、Double 15の目標でもある第三の柱構築を促進し、研究開発のレベルアップ、製品・用途開発の迅速化を図るために、2014年度第4四半期完成予定で中央研究所内に先端研究棟を建設しております。

当連結会計年度の研究開発関連費用は37億55百万円であります。

セグメントごとの研究開発活動の状況を要約すると次のとおりであります。

〔合成樹脂〕

PVOH樹脂分野及び新規ポリマー開発分野では優れたガスバリア性、生分解性、溶融成形性を有するアモルフラスビニルアルコール系樹脂「ニチゴーGポリマー」の用途開発、市場開発を推進しており、中でもエネルギーやアメニティ分野の最先端技術への応用に注力しています。また、生分解性を活かした環境適応型の高機能材料の研究も進めております。

EVOH樹脂分野では、食品用途を中心に高湿度下でも良好なバリア性能を示す製品の開発を進めております。スペシャリティポリマーの分野では、アクリル系樹脂・UV硬化樹脂・ポリエステル系樹脂及び機能性エマルジョンを開発し、情報電子・光学分野のみならずライフアメニティ分野にも用途開発を進めております。スマートフォン用特殊接着樹脂や、自己修復性や抗菌性能を有すコーティング材料など市場ニーズにいち早く対応できる開発を進めております。また、化粧品など高機能分野へ特殊エマルジョンの採用、当社の粘着技術をベースにした高機能テープはユーザー評価が進んでおります。

情報電子材料及びPVOHフィルム分野では、顧客のニーズに対応すべく高機能商品の開発を行っております。光学シート開発室では光学性能に優れた「ORGA」の厚物シートの開発にも成功し、プラスチックシートの軽量、易加工の特長を活かした新規用途開発を進めております。

当連結会計年度における研究開発費の金額は30億58百万円であります。

〔有機合成〕

ファインケミカル分野では、当社の有機合成化学の技術を駆使して合成樹脂や機能材料の性能や使い易さを飛躍的に伸ばすポットライフの長い一液硬化型エポキシ硬化剤の開発に注力しております。その他に長年培ってきたイミダゾール系化合物の合成技術を駆使して、最先端情報電子材料の開発を地域イノベーションや大学との連携を深めながら進めております。

当連結会計年度における研究開発費の金額は2億26百万円であります。

なお、当連結会計年度におけるセグメントに帰属しない全社共通の研究開発費の金額は4億70千万円であります。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当連結会計年度におけるわが国経済は、アベノミクス効果への期待感から円安・株高が進行し、内需については公的需要の拡大や消費者マインドの改善、設備投資の持ち直しや消費増税前の駆け込み需要などもあり、着実な回復基調にありました。また、外需についても円安を追い風に先進国向けを中心とした輸出回復により製造業の業績改善が進むなど、全体的に景気回復のすそ野が広がる中で推移しました。しかし、先行きについては、消費増税後の腰折れや中国など新興国経済の停滞、原燃料価格の高止まりなどが懸念されます。

当社グループは、こうした事業環境のもとスペシャルティ製品の一部伸長や円安による為替効果ならびに一部連結子会社の決算期変更（以下：決算期変更）の影響などもあり全体的な業績は改善しました。

当社グループは、2011年度よりスタートした中期経営計画「Double 1.5（ダブルフィフティーン）」（2011年度～2015年度）に掲げた目標を達成するためにコア事業の積極的拡大、第三の柱構築の加速などに引き続き取り組み、計画に基づいた投資や拡販を進めております。

なお、次の製品動向等については、12か月ベースで記載しております。

PVOH樹脂「ゴーセノール」は、汎用・スペシャルティ分野とも販売数量は下半期の寄与もあり前期に比べ増加し、売上高も輸出に係る円安効果が大きく前期に比べ増加しました。

二次加工分野の機能フィルムは、光学用途の「OPLフィルム」が5系広幅設備のフル寄与もあり、売上高は前期に比べ増加しました。

EVOH樹脂「ソアノール」は、食品包装用途を中心に販売数量は前期並みに留まりましたが、海外子会社の円安による為替換算差が大きく、売上高は前期に比べ増加しました。

粘・接着樹脂および機能性コーティング樹脂を中核とするスペシャルティポリマーは、エマルジョン製品は健闘しましたが、「コーボニール」が伸び悩んだこともあり売上高は前期に比べ減少しました。

以上の結果、合成樹脂の売上高は、決算期変更による影響額84億88百万円を含め835億60百万円（前期比24.5%増）となりました。セグメント利益（営業利益）は、原燃料コストの増加や労務費・修繕費等の固定費増などの減益要因はありましたが、「OPLフィルム」の販売数量増および円安効果ならびに減価償却方法の変更による償却負担減などの増益要因が大きく、上記の決算期変更による影響額13億90百万円を含め、前期に比べ45億69百万円増加し、164億7百万円（同38.6%増）となりました。

酢酸、酢酸ビニルモノマー等の工業薬品および酢酸誘導体等のファインケミカル製品等を中核とする有機合成の売上高は、工業薬品類の販売数量減はありましたが、ファインケミカル製品の一部販売数量増に加え、決算期変更による影響額24億32百万円を含めた結果、237億54百万円（前期比15.1%増）となりました。セグメント利益（営業利益）は、決算期変更による影響額24百万円の加算はありましたが、工業薬品類の販売数量減および原燃料高による売買価格スプレッドの縮小などの減益要因が大きく、前期に比べ1億24百万円減少し、49百万円（同71.3%減）となりました。

報告セグメントの売上高は、決算期変更による影響額109億20百万円を含め1,073億14百万円（前期比22.3%増）となり、セグメント利益（営業利益）は決算期変更による影響額14億15百万円を含め164億57百万円（同37.0%増）となりました。

その結果、当連結会計年度の連結業績につきましては、売上高は前期に比べ191億75百万円増加し、1,111億51百万円（前期比20.8%増）となりました。営業利益は前期に比べ43億70百万円増加し、162億29百万円（同36.9%増）となり、経常利益は前期に比べ43億37百万円増加し、167億12百万円（同35.0%増）となりました。当期純利益は、過年度法人税等を26億12百万円追加計上したことにより前期に比べ1億40百万円減少し、80億18百万円（同1.7%減）となりました。

なお、上記金額に含まれる決算期変更による影響額は、売上高109億20百万円、営業利益14億15百万円、経常利益13億87百万円、当期純利益9億83百万円です。

今般追加計上した過年度法人税等は、米国・英国両製造子会社からの技術料収入取引に関し、大阪国税局より移転価格税制に基づく更正処分を受ける見込みとなったことから法人税・地方税等を見積り計上したものであります。当社は、これまで各国の税制に従い、適正な納税を行ってきたと認識しており、今回の税務当局の指摘内容は到底承服できるものではないことから更正通知を受領した平成26年5月27日に同日付で異議申し立てを行いました。今後、二重課税排除の観点から租税条約に基づく日米・日英税務当局間の相互協議の申請を行います。その協議の

中で当社の見解が認められ、納得できる結論が得られるものと考えております。

(2) 財政状態の分析

当連結会計年度末の総資産は1,301億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ179億27百万円増加しました。流動資産は569億7百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億47百万円減少しました。主な要因は、商品及び製品の増加（33億5百万円）、原材料及び貯蔵品の増加（11億2百万円）、現金及び預金の減少（26億48百万円）等であります。固定資産は732億円となり、前連結会計年度末に比べ180億75百万円増加しました。主な要因は、有形固定資産の増加（177億49百万円）、投資その他の資産の増加（3億20百万円）等であります。

当連結会計年度末の負債合計は533億37百万円となり、前連結会計年度末に比べ66億2百万円増加しました。流動負債は388億22百万円となり、前連結会計年度末に比べ56億74百万円増加しました。主な要因は、短期借入金の増加（47億96百万円）、未払法人税等の増加（18億26百万円）等であります。固定負債は145億15百万円となり、前連結会計年度末に比べ9億28百万円増加しました。主な要因は、リース債務（固定）の増加（5億83百万円）等であります。

当連結会計年度末の純資産合計は767億70百万円となり、前連結会計年度末に比べ113億26百万円増加しました。主な要因は、当期純利益（80億18百万円）の計上による増加、為替換算調整勘定の増加（45億53百万円）、配当金の支払（17億53百万円）による減少等であります。

以上の結果、自己資本比率は、前連結会計年度末の58.3%から59.0%になりました。

(3) 資金の流動性及び資本の財源

当社グループの当連結会計年度のキャッシュ・フローの状況は、「第2 事業の状況 1.業績等の概要 (2) キャッシュ・フローの状況」に記載のとおりであります。

当社グループの事業資金については、自己資金及び金融機関からの借入金により調達しております。

当連結会計年度末における借入金残高は147億18百万円であり、このうち、運転資金としての短期借入金は86億12百万円、設備資金としての長期借入金は61億6百万円（1年内返済予定の長期借入金22億56百万円を含む）であります。

借入金残高は前連結会計年度末に比べ、46億83百万円増加しました。

(4) 戦略的現状と見通し

当社グループは、2025年のありたい姿を「当社グループの強みを活かしたスペシャリティ製品を提供することで、持続可能な社会に貢献するとともに、グローバル市場で存在感のある企業でありたい」と定め、この姿を達成するための中期経営計画「Double 1 5（ダブルフィフティーン）」（2011年度～2015年度）に取り組んでおります。引き続き「Double 1 5」に定めた取り組みを着実に実行し、2015年度に連結売上高1,300億円、営業利益200億円、営業利益率15%以上の達成を目指します。

「Double 1 5」での主な取り組みは以下のとおりです。

1 コア事業の積極的拡大

- ・「OPLフィルム」「ソアノール」の一層の品質向上、設備増強の確実な進行

2 第三の柱構築の加速と新製品開発促進に向けた研究開発の強化

- ・粘・接着樹脂、機能性コーティング樹脂の海外市場への拡販と粘着製品の欧米市場開拓
- ・「ニチゴーGポリマー」の水溶性不織布用途に続く用途開発と早期実需化
- ・光学シート「ORGA（オルガ）」の早期採用と実需化
- ・研究開発体制強化による粘着製品の開発、「環境」や「エネルギー」分野での新製品・新用途開発

3 競争力の強化

- ・生産基盤強化のための効率的な投資
- ・事業の選択と集中の推進
- ・固定費削減等によるコスト競争力の強化

4 海外展開の加速

- ・欧米市場、新興国市場での拡販やアジア地域での現地生産、グローバル人材育成プログラムの実施

- 5 安全・環境・品質を担保するための取り組み
- ・安全操業、安定生産、万全な品質保証の堅持
 - ・地球温暖化問題への対応

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当社グループ（当社および連結子会社）は、PVOH事業、EVOH事業およびスペシャリティポリマー事業への収益性投資を中心に合理化ならびに製品の信頼性を高めることを目的として設備投資を継続的に実施しております。当連結会計年度は建設中の光学用ポリビニルアルコールフィルム「OPLフィルム」生産設備（6系）および同じく建設中のEVOH樹脂「ソアノール」米国生産設備増設を含め、総額202億63百万円となりました。所要資金については、自己資金および借入金により賄っております。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却などはありません。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成26年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他	合計	
水島工場 (岡山県倉敷市)	合成樹脂 有機合成	PVOH等 生産設備	1,946	2,749	1,746 (136)	—	456	6,898	234
大垣工場 (岐阜県大垣市)	合成樹脂 有機合成	機能樹脂等 生産設備	2,586	1,905	1,182 (175) [51]	—	510	6,185	352
熊本工場 (熊本県宇土市)	合成樹脂	PVOH等 生産設備	5,296	6,216	102 (508) [4]	627	6,388	18,630	221
中央研究所 (大阪府茨木市)	合成樹脂 有機合成	研究開発施設設備	362	0	260 (25)	—	335	958	97
本社、支社等 (大阪市北区他)	合成樹脂 有機合成	事務所設備 他	340	229	256 (1) [0]	—	174	1,001	133

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具、備品及び建設仮勘定の合計であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 土地及び建物の一部を賃借しております。賃借している面積については、[]で内書きしております。

3 現在休止中の主要な設備はありません。

(2) 国内子会社

平成26年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
				建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他	合計	
関西化学工業(株)	高瀬工場 他 (香川県三豊郡他)	有機合成	フィルム 生産設備	341	423	637 (68)	—	10	1,411	104

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具、備品及び建設仮勘定の合計であります。なお、金額には消費税等は含まれておりません。

2 現在休止中の主要な設備はありません。

3 関西化学工業(株)には香川県三豊郡以外の同社の他事業所の資産を含め記載しております。

(3) 在外子会社

平成26年3月31日現在

会社名 (主な所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(百万円)						従業員数 (名)
			建物 及び 構築物	機械装置 及び 運搬具	土地 (面積千㎡)	リース 資産	その他	合計	
NOLTEX L.L.C.(米国) NIPPON GOHSEI UK Ltd.(英国)	合成樹脂	EVOH 生産設備	438	16,987	173 (166) [108]	—	13,273	30,871	211

(注) 1 帳簿価額のうち「その他」は、工具、器具及び備品及び建設仮勘定の合計であります。

2 土地及び建物の一部を賃借しております。賃借している面積については、[]で内書きしております。

3 現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設等

当社グループ(当社及び連結子会社)の設備投資については、需要予測、利益に対する投資割合等を総合的に勘案し策定した年度計画により運用しております。

当連結会計年度末現在における設備の新設、改修等に係る設備投資予定額は約137億54百万円ですが、その所要資金については、自己資金および借入金により充当する予定であります。

なお、重要な設備の新設の計画は以下のとおりであります。

会社名 事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着工及び 完工予定		完成後の 増加能力
			総額 (百万円)	既支払額 (百万円)		着工	完工	
日本合成化学工業(株) 熊本工場 (熊本県宇土市)	合成樹脂	光学用ポリ ビニルアル コールフィ ルム生産設 備(6系)	6,500	5,550	自己資金	平成25年 1月	平成26年 第1四半 期	1,800万 ㎡/年
NOLTEX L.L.C. (米国)	合成樹脂	EVOH 生産設備 (増設)	千ドル 180,000	千ドル 121,489	自己資金 及び 借入金	平成25年 7月	平成26年 第4四半 期	15,000 トン/年
日本合成化学工業(株) 中央研究所 (大阪府茨木市)	合成樹脂 有機合成	先端 研究棟	1,350	10	自己資金 及び 借入金	平成26年 3月	平成27年 第4四半 期	—

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	154,944,000
計	154,944,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年6月19日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	98,369,186	98,369,186	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株であります。
計	98,369,186	98,369,186	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成10年4月1日～ 平成11年3月31日(注)	5,056	98,369	—	17,989	1,234	13,878

(注) 自己株式消却による資本準備金の減少

(6) 【所有者別状況】

平成26年3月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数1,000株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	—	45	34	243	148	2	3,450	3,922	—
所有株式数(単元)	—	16,654	973	54,682	14,545	17	11,291	98,162	207,186
所有株式数の割合(%)	—	16.96	0.99	55.71	14.82	0.02	11.50	100	—

(注) 当社は、平成26年3月31日現在自己株式を966,975株実質的に保有しております。
これらのうち、単元株式966,000株(966単元)は「個人その他」の欄に、単元未満株式975株は「単元未満株式の状況」の欄に含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成26年3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
三菱化学株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目1番1号	49,544	50.36
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番11号	5,471	5.56
ステート ストリート バンク アンド トラストカンパニー(常任代理人 香港上海銀行)	P.O. BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	3,532	3.59
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	東京都港区浜松町2丁目11番3号	2,599	2.64
資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番12号	1,522	1.54
ノーザン トラスト カンパニー(エイブイエフシー) アカウント ノン トリーティー(常任代理人 香港上海銀行)	50 BANK STREET CANARY WHARF LONDON E14 5NT, UK (東京都中央区日本橋3丁目11番1号)	1,244	1.26
株式会社みずほ銀行	東京都千代田区丸の内1丁目3番3号	1,158	1.17
丸紅株式会社	東京都千代田区大手町1丁目4番2号	1,000	1.01
日本合成化学工業株式会社(自己株式)	大阪府大阪市北区小松原町2番4号	966	0.98
株式会社りそな銀行	大阪府大阪市中央区備後町2丁目2番1号	850	0.86
計	— — —	67,888	69.01

(注) 1 上記の所有株式数のうち、信託業務にかかる株式数は次のとおりであります。

日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 5,471千株
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 2,599千株
資産管理サービス信託銀行株式会社 1,522千株

2 所有株式数は千株未満を切捨てて表示しております。

(8) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 966,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 97,196,000	97,196	—
単元未満株式	普通株式 207,186	—	一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	98,369,186	—	—
総株主の議決権	—	97,196	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式975株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 日本合成化学工業株式会社	大阪市北区小松原町 2番4号	966,000	—	966,000	0.9
計	—	966,000	—	966,000	0.9

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	4,468	4,373,223
当期間における取得自己株式	830	572,700

(注) 当期間における取得自己株式には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの取得自己株式は含まれておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他(単元未満株式の買増請求による売渡)	—	—	—	—
保有自己株式数	966,975	—	967,805	—

(注) 当期間における取得自己株式の処理状況及び保有状況には、平成26年6月1日からこの有価証券報告書提出日までの取得自己株式の処理は含まれておらず、保有自己株式数は、平成26年5月31日現在のものであります。

3 【配当政策】

当社の配当政策に関する基本方針は以下のとおりであります。

- (1) 株主への利益還元を経営の重要課題の一つとして認識し、将来の事業展開に備えるための内部留保の確保や企業体質強化を図りつつ、中期的な経営環境の変化、連結ベースでの業績動向を踏まえた配当を行うこと。
- (2) 業績を勘案して、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うこと。これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当期の期末配当金については、当期の営業成績および決算内容ならびに上記配当政策を勘案し、1株当たり9円（中間配当は9円）とすることを決定いたしました。この結果、年間配当金は、1株当たり18円となりました。当社は取締役会の決議によって、毎年9月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

なお、当事業年度の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額（百万円）	1株当たり配当額（円）
平成25年10月30日 取締役会決議	876	9
平成26年6月19日 定時株主総会決議	876	9

4 【株価の推移】

- (1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第127期	第128期	第129期	第130期	第131期
決算年月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月	平成26年3月
最高(円)	729	683	573	869	1,306
最低(円)	269	392	367	408	686

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

- (2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成25年10月	11月	12月	平成26年1月	2月	3月
最高(円)	991	964	978	989	912	840
最低(円)	864	910	882	908	762	686

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役社長 (代表取締役)		木 村 勝 美	昭和30年10月25日生	昭和53年4月 平成9年11月 平成15年1月 平成21年4月 平成23年6月 平成24年6月 平成25年6月	当社入社 ニチゴー・モートン株式会社営業部長 同社事業部長 当社スペシャルティ営業本部情報電子材料部長 当社取締役 スペシャルティ営業本部情報電子材料部長 当社常務取締役 スペシャルティ営業本部長 兼 同本部情報電子材料部長 当社代表取締役社長(現任)	(注3)	20
取締役 (代表取締役) 専務執行役員	研究開発本部長 環境安全・品質保証部、新事業開発部、知的財産部担当	石 崎 恵 治	昭和27年5月22日生	昭和52年4月 平成16年6月 平成18年6月 平成19年4月 平成20年1月 平成20年6月 平成23年6月 平成24年2月 平成24年6月 平成25年6月 平成25年12月	当社入社 当社機能材料事業部電子材料グループリーダー 当社取締役 営業本部スペシャルティ部門情報電子材料部長 当社取締役 営業本部スペシャルティ部門長 兼 同部門情報電子材料部長 当社取締役 営業本部スペシャルティマテリアル部門長 当社常務取締役 スペシャルティ営業本部長 当社常務取締役 研究開発本部長 環境安全・品質保証部、知的財産部担当 当社常務取締役 研究開発本部長 環境安全・品質保証部、知的財産部、新事業開発部担当 当社常務取締役 研究開発本部長 兼 環境安全・品質保証部長 新事業開発部、知的財産部担当 当社取締役 専務執行役員 研究開発本部長 兼 環境安全・品質保証部長 新事業開発部、知的財産部担当 当社代表取締役 専務執行役員 研究開発本部長 環境安全・品質保証部、新事業開発部、知的財産部担当(現任)	(注3)	35
取締役 常務執行役員	研究開発本部 中央研究所長	森 知 行	昭和31年3月9日生	昭和55年4月 平成22年6月 平成24年4月 平成26年4月	三菱化成工業株式会社(現三菱化学株式会社)入社 同社執行役員 四日市事業所開発研究所長 同社執行役員 株式会社三菱化学技術研究センター取締役社長 当社取締役常務執行役員 研究開発本部中央研究所長(現任)	(注3)	3

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
取締役 常務執行役員	総務人事部長 経営効率化推進 室担当	高 橋 恵 一	昭和31年1月16日生	昭和53年4月 平成13年4月 平成15年4月 平成20年1月 平成20年6月 平成24年6月 平成25年6月 平成26年6月	当社入社 NIPPON GOHSEI Europe GmbH 取締 役社長 当社社長室部長 当社営業本部スペシャルティポリ マー部門スペシャルティポリマー部 長 当社スペシャルティ営業本部スベ シヤリティポリマー部長 当社取締役 総務人事部長 当社常務執行役員 総務人事部長、 経営効率化推進室担当 当社取締役 常務執行役員 総務人 事部長 経営効率化推進室担当(現 任)	(注3)	23
取締役 執行役員	経営企画室長 監査室、経理部 担当	高 田 和 紀	昭和31年10月17日生	昭和54年4月 平成18年4月 平成21年4月 平成24年6月 平成25年6月	三菱油化株式会社(現三菱化学株式 会社)入社 同社機能商品管理部門管理部長 同社機能商品管理部長 当社経営企画室長 当社取締役 執行役員 経営企画室 長 監査室、経理部担当(現任)	(注3)	10
取締役	非常勤	和 賀 昌 之	昭和33年4月10日生	昭和56年4月 平成21年4月 平成23年4月 平成24年6月 平成25年4月 平成25年6月	三菱化成工業株式会社(現三菱化学 株式会社)入社 同社テレフタル酸部門長 株式会社三菱ケミカルホールディン グス経営戦略室長 同社執行役員 経営戦略室長 三菱化学株式会社執行役員 機能化 学本部長 当社取締役兼任(現任)	(注3)	—
監査役	常勤	小 田 通 郎	昭和26年8月12日生	昭和52年4月 平成13年5月 平成18年6月 平成19年4月 平成19年6月 平成20年6月 平成21年6月 平成23年6月	当社入社 当社ゴーセノール事業部部長 当社研究開発本部中央研究所長 当社研究開発本部長 当社取締役 研究開発本部長 当社取締役 研究開発本部長 新規 ポリマー開発室担当 当社取締役 研究開発本部長 環境 安全・品質保証部、知的財産部担当 当社常勤監査役(現任)	(注4)	22
監査役	常勤	赤 木 淳 一	昭和29年11月13日生	昭和52年4月 平成11年4月 平成13年6月 平成16年6月 平成20年6月 平成24年6月 平成25年6月	当社入社 当社熊本事業所事務部長 当社人事部長 当社事業支援本部総務人事部長 当社取締役 事業支援本部総務人事 部長 当社取締役 監査室、経営効率化推 進室、経理部担当 当社常勤監査役(現任)	(注5)	18

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
監査役	非常勤	多 屋 真 治	昭和35年 7月13日生	昭和59年 4月 平成17年 1月 平成23年 6月 平成25年 6月	三菱化成工業株式会社(現三菱化学株式会社)入社 同社人事部グループマネージャー 同社機能商品管理部グループマネージャー 三菱化学株式会社理事 機能商品管理部部長 当社監査役兼任(現任)	(注6)	—
監査役	非常勤	吉 野 孝 義	昭和22年 6月2日生	昭和50年 4月 昭和62年 4月 平成 6年 4月 平成 7年 4月 平成11年 4月 平成19年 3月 平成22年 1月 平成24年 6月 平成24年 6月	大阪地方裁判所判事補 仙台地方裁判所・仙台家庭裁判所判事 福岡法務局訟務部長 大阪法務局訟務部長 大阪国税不服審判所長 京都地方裁判所長 大阪地方裁判所長 退官 当社監査役(現任)	(注7)	—
計							131

(注) 1 取締役 和賀昌之は、社外取締役であります。

2 監査役 多屋真治および吉野孝義は、社外監査役であります。

3 取締役の任期は、平成26年 3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年 3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

4 監査役 小田通郎の任期は、平成23年 3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年 3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

5 監査役 赤木淳一の任期は、平成25年 3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年 3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

6 監査役 多屋真治の任期は、前任者の補欠として選任されたため、平成26年 3月期に係る定時株主総会終結の時から平成28年 3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

7 監査役 吉野孝義の任期は、前任者の補欠として選任されたため、平成24年 3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年 3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

8 当社は、執行役員制度を導入しております。

なお、取締役兼務の者を除く執行役員は次のとおりであります。

執行役員	基礎化学品営業本部長 兼 東京支社長	購買・物流部担当	佐藤 昌宏
執行役員	スペシャルティ営業本部長	アジア室担当	津川 美寛
執行役員	生産技術本部長		和田 正博
執行役員	環境安全・品質保証部長		川端 岳生
執行役員	生産技術本部 大垣工場長		関 徹
執行役員	スペシャルティ営業本部 ソアノール部長		浅野 邦芳
執行役員	経理部長		光本 昌夫

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

当社グループは、化学を基盤とした技術によって新しい価値を創造し、人々の豊かで快適な生活に貢献することを経営理念としております。当社グループは、コーポレート・ガバナンスを経営上の重要課題の一つと位置づけ、コンプライアンス体制の強化および経営の透明化の向上に努め、企業として求められる社会的責任を果たし、株主の皆様やお客様をはじめとするステークホルダーとの信頼関係の強化を図ってまいります。

企業統治の体制

(企業統治の体制の概要)

当社は監査役および監査役会設置会社であります。

当社の取締役は6名であり、そのうち1名が社外取締役であります。

当社の監査役は4名であり、そのうち2名が社外監査役であります。

当社の執行役員は11名であり、そのうち4名が取締役と兼務しております。

当社は取締役会、監査役会、経営会議を主な機関とする企業統治の体制をとっております。

(企業統治の体制を採用する理由)

当社は、社外監査役を含めた監査役による監査体制が経営監視機能として有効であると判断し、監査役および監査役会設置会社形態を採用しております。

監査役は、監査役監査を支えるに十分な人材を確保した上で、取締役の職務執行について、監査役会の定める監査基準および分担に基づき監査を実施しております。監査役は、取締役会をはじめとする重要な会議に出席するほか、取締役社長との意見交換、取締役等からの業務執行状況の聴取、内部統制部門および会計監査人との情報交換等により、取締役の職務執行状況を監査し、経営監視機能を果たしております。

また、当社は社外取締役を選任しております。社外取締役は、化学業界・需要動向に精通しており、経営判断を行ううえで必要な人材で、外部からの経営監視機能を果たしております。取締役会で決議すべき議案で特に重要なものについては、事前に社外取締役および社外監査役に説明を行っております。また、社外取締役および社外監査役から議案についての説明を求められた場合は、取締役会の前に必要な説明を行っております。

当社は、執行役員制度を採用し、「経営意思決定機能と業務執行監督機能」、「業務執行機能」を明確に分離し、経営の効率化とコーポレート・ガバナンスの拡充を図っております。

(内部統制システム及びリスク管理体制の整備の状況)

当社の内部統制システムおよびリスク管理体制の整備の状況は、以下のとおりであります。

イ．取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社は、下記のとおり、法令および企業倫理遵守体制の強化を図っております。

）事業活動を取り巻く法令の他、役員および従業員の行動規範を定めた「日本合成化学グループ倫理規程」を制定し、全グループ構成員に小冊子を配布、周知徹底を図っております。

）外部専門機関による関連法令の教育を定期的に行っております。

）「コンプライアンス相談室」を設置し、グループ員が法令違反その他コンプライアンスに関する事項を発見した場合の情報提供の手段を確保しております。また、「コンプライアンス相談室」構成員が連絡を受けた場合は、即時、検討会を開催し内容の検討を行っております。

）社長を委員長とするコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制や施策等の充実を図っております。

ロ．取締役の職務執行に係る情報の保存および管理に関する体制

当社は、株主総会議事録、取締役会議事録、経営会議議事録、稟議書、契約書などの取締役の職務執行に係る重要な書類について、各業務担当部門が社内規程に定められた保存方法により、適切な管理を行い、必要に応じて閲覧可能な状態を維持しております。

八．損失の危険の管理に関する規定その他の体制

当社は、グループの事業活動に伴う重大なリスクおよびその所管部門を定め、各種リスクへの対応策を講ずるとともに、リスクが顕在化したときの損害を最小限にとどめるべく、リスク対応策の管理状況を定期的にリスク管理委員会において審議し、必要に応じて対応策を変更もしくは新たに講ずるものとしております。また、コンプライアンス、環境、品質等に関するリスクについては、それぞれに関する規程を定め、適切な運用を行っております。

二．取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社は、下記の経営管理システムにより、取締役の職務執行の効率性を確保しております。

）取締役会

原則月１回開催し、重要事項について多面的な検討を経て意思決定を行っております。また、取締役の業務執行の監督も行っております。

）経営会議

社長をはじめとする取締役、執行役員などから構成される経営会議を原則月２回開催し、個別の業務執行について審議し、重要事項については取締役会に付議しております。

）執行役員制度

執行役員制度を採用し、「経営意思決定機能と業務執行監督機能」、「業務執行機能」を明確に分離し、経営の効率化とコーポレート・ガバナンスの拡充を図っております。また、執行役員は取締役会の決定した経営意思に基づき業務執行に専念し、経営のスピードアップを図っております。

）職務権限規程および稟議規程

職務権限規程および稟議規程など意思決定ルールを制定し、業務執行に関する責任と権限を明確化することにより、業務の効率的運営を行っております。

）マネジメントシステム

当社は、法令・企業倫理遵守、環境・安全、品質、財務報告に係る内部統制、業務効率化を包含した統合マネジメントシステムを構築し、マネジメントマニュアルと各部門業務規程をもとに、PLAN - DO - CHECK - ACT（計画 - 実行 - 評価 - 改善）サイクルにより運用することで業務プロセスの効率化・透明化を図っております。

ホ．財務報告の信頼性を確保するための体制

当社は、金融商品取引法に定める財務計算に関する書類その他の情報の適正性を確保するため、「日本合成化学グループ財務報告に係る内部統制システム規程」を制定し、これに基づき日本合成化学グループの財務報告に係る内部統制システムの整備、運用ならびに有効性の評価を行い、必要に応じて是正処置をとっております。

ヘ．当社ならびにその親会社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

監査室は、業務執行部門から独立した立場で、每期監査の重点項目・範囲等を定めて、当社各部門およびグループ会社の運営状況を監査しております。

当社は、グループ会社の予算編成・決算、重要な投資・契約締結等に際してのルールを定めたグループ会社運営基準に基づき、当社への事前申請・承認もしくは報告制度によるグループ会社の運営管理を行っております。

ト．監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

当社は、監査役を補助するために監査役付を設置し、監査役付は監査役会の事務局および監査役の業務補助を行っております。

チ．監査役の職務を補助すべき使用人の取締役からの独立性に関する事項

当社は、前項の使用人の任命、異動について、事前に監査役会の同意を得て実施しております。

リ．取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他監査役への報告に関する体制

当社は、監査役への報告について、下記の体制を整備しております。

）社長は、監査役と定期的な意見交換を行っております。

）取締役会、経営会議などの重要な会議において、付議事項の説明や業務執行の報告を行っております。

）稟議書その他業務執行に関する重要な文書を回付し、必要に応じて説明を行っております。

）監査室が行った監査結果の報告書を監査役に回付し、必要に応じて説明を行っております。

又、その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査室は、監査の方針および監査計画について監査役と調整を図り、効率的な監査役監査が行える体制をとっております。

内部監査及び監査役監査の状況

当社は、監査室(人員4名)を設置し、定期的にグループ会社の法令遵守、業務プロセスの適正性等を監査し、監査結果を監査役に報告しております。

監査役(社内監査役2名、社外監査役2名)は、原則月1回監査役会を開催するとともに、取締役会その他の重要な会議への出席、各事業所・部門及び主要なグループ会社に対し監査計画に基づき監査を実施しております。

また、監査役は会計監査人から報告を受けるとともに、監査室と連携をとり監査の実効性と効率性の向上を図っております。

社外取締役及び社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は2名であります。

イ．社外取締役

(和賀 昌之氏)

当社の親会社である三菱化学㈱の執行役員機能化学本部長であります。

国内外で広範な化学関連事業を展開する三菱化学㈱の執行役員である同氏は、化学業界・需要動向等に精通しており、当社の社外取締役として必要な人材であります。

三菱化学㈱と当社は原料購入、製品販売の取引がありますが、いずれも通常の取引であり、同氏と当社間に特別の利害関係はありません。

ロ．社外監査役

(多屋 真治氏)

当社の親会社である三菱化学㈱の機能商品管理部長であります。

国内外で広範な化学関連事業を展開する三菱化学㈱でグループ経営業務を担当し、グループ監査に精通している同氏は、当社の社外監査役として必要な人材であります。

三菱化学㈱と当社は原料購入、製品販売の取引がありますが、いずれも通常の取引であり、同氏と当社間に特別の利害関係はありません。

(吉野 孝義氏)

法曹界における長年の経験と法律面における豊富な専門知識を有する同氏は、当社の社外監査役として必要な人材であります。

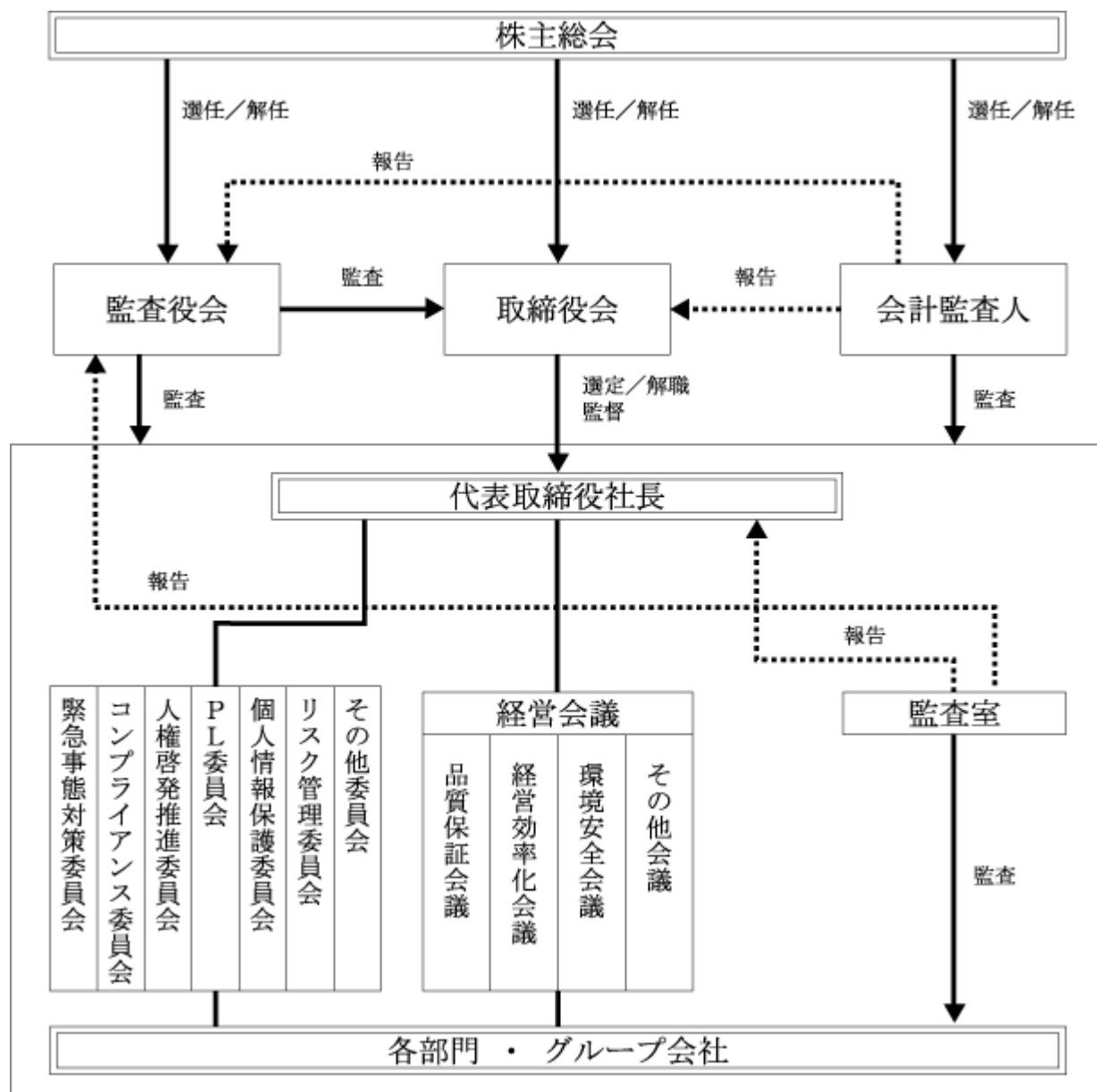
同氏と当社の間では、当社定款の規定に基づき、会社法第427条第1項の規定により、同法第423条第1項の賠償責任を限定する責任限定契約を締結しております。当該契約に基づく賠償責任の限度額は法令に定める最低限度額であります。

同氏と当社間に特別の利害関係はありません。

ハ．当該社外取締役及び社外監査役の独立性に関する考え方

当該社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準又は方針はないものの、選任にあたっては㈱東京証券取引所の独立役員の独立性に関する判断基準等を参考にしております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制および内部統制体制の模式図



役員の報酬等

イ．提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く。)	263	181	—	82	—	11
監査役 (社外監査役を除く。)	52	49	—	3	—	3
社外役員	4	4	—	—	—	1

ロ．提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

ハ．使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

総額(百万円)	対象となる役員の員数 (名)	報酬等の総額
59	7	基本報酬

二．役員の報酬等の額の決定に関する方針

役員の報酬等の額は、株主総会の決議を得た範囲内で決定しております。

取締役の報酬等の額については役位と業績への貢献度による算定方式により、取締役会の決議にて決定しております。

監査役の報酬等の額については監査役の協議により決定しております。

株式の保有状況

イ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 60銘柄

貸借対照表計上額の合計額 2,904百万円

ロ．保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の保有区分、銘柄、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
積水化学工業(株)	343,000	353	取引関係維持強化
小野薬品工業(株)	58,200	329	取引関係維持強化
(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ	505,000	281	取引金融機関との関係強化
(株)ダイセル	256,000	190	取引関係維持強化
(株)大垣共立銀行	547,557	187	取引金融機関との関係強化
リンテック(株)	51,500	90	取引関係維持強化
日本ペイント(株)	52,000	48	取引関係維持強化
ロックペイント(株)	80,000	46	取引関係維持強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	213,000	42	取引金融機関との関係強化
日本特殊塗料(株)	110,440	42	取引関係維持強化
長瀬産業(株)	31,000	35	取引関係維持強化
セメダイン(株)	90,000	35	取引関係維持強化
東洋インキＳＣホールディングス(株)	76,532	33	取引関係維持強化
日本化薬(株)	27,951	32	取引関係維持強化
(株)りそなホールディングス	64,300	31	取引金融機関との関係強化
菊水化学工業(株)	58,000	26	取引関係維持強化
大阪有機化学工業(株)	58,000	24	取引関係維持強化
グンゼ(株)	100,000	24	取引関係維持強化
綜研化学(株)	20,000	23	取引関係維持強化
関西ペイント(株)	21,000	21	取引関係維持強化
大日精化工業(株)	50,000	21	取引関係維持強化
日本新薬(株)	12,000	16	取引関係維持強化
三井物産(株)	10,577	13	取引関係維持強化
(株)肥後銀行	20,000	12	取引金融機関との関係強化
三京化成(株)	46,200	10	取引関係維持強化
D I C (株)	45,542	9	取引関係維持強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	20,000	8	取引金融機関との関係強化
(株)岡三証券グループ	10,000	8	取引関係維持強化
日本化成(株)	60,000	8	取引関係維持強化
エスケー化研(株)	1,500	7	取引関係維持強化

(注) リンテック(株)以下25社は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ですが、上位30銘柄について記載しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (百万円)	保有目的
小野薬品工業(株)	58,200	520	取引関係維持強化
積水化学工業(株)	343,000	368	取引関係維持強化
(株)三菱ＵＦＪフィナンシャル・グループ	505,000	286	取引金融機関との関係強化
(株)ダイセル	256,000	216	取引関係維持強化
(株)大垣共立銀行	547,557	154	取引金融機関との関係強化
リンテック(株)	51,500	101	取引関係維持強化
日本ペイント(株)	52,000	81	取引関係維持強化
日本特殊塗料(株)	110,440	67	取引関係維持強化
ロックペイント(株)	80,000	47	取引関係維持強化
(株)みずほフィナンシャルグループ	213,000	43	取引金融機関との関係強化
長瀬産業(株)	31,000	39	取引関係維持強化
セメダイン(株)	90,000	36	取引関係維持強化
日本化薬(株)	27,951	32	取引関係維持強化
(株)りそなホールディングス	64,300	32	取引金融機関との関係強化
東洋インキＳＣホールディングス(株)	76,532	31	取引関係維持強化
関西ペイント(株)	21,000	30	取引関係維持強化
ゲンゼ(株)	100,000	27	取引関係維持強化
大阪有機化学工業(株)	58,000	27	取引関係維持強化
菊水化学工業(株)	58,000	24	取引関係維持強化
大日精化工業(株)	50,000	23	取引関係維持強化
日本新薬(株)	12,000	23	取引関係維持強化
綜研化学(株)	20,000	20	取引関係維持強化
三井物産(株)	10,577	15	取引関係維持強化
ＤＩＣ(株)	45,542	12	取引関係維持強化
(株)肥後銀行	20,000	11	取引金融機関との関係強化
エスケー化研(株)	1,500	10	取引関係維持強化
三京化成(株)	46,200	10	取引関係維持強化
三井住友トラスト・ホールディングス(株)	20,000	9	取引金融機関との関係強化
(株)岡三証券グループ	10,000	8	取引関係維持強化
日本化成(株)	60,000	7	取引関係維持強化

(注) (株)大垣共立銀行以下26社は、貸借対照表計上額が資本金額の100分の1以下ですが、上位30銘柄について記載しております。

みなし保有株式

該当事項はありません。

八．保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

会計監査の状況

当社は、会社法に基づく会計監査および金融商品取引法に基づく会計監査人として新日本有限責任監査法人を起用しております。当社と同監査法人および当社の監査に従事する業務執行社員との間には、特別な利害関係はありません。

当期において業務を執行した公認会計士の氏名および監査業務に係る補助者の構成は以下のとおりであります。なお、継続監査年数については全員 7 年以内であるため記載を省略しております。

業務を執行した公認会計士の氏名

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員

小川佳男、山本秀男

業務執行社員

会計監査業務に係る補助者の構成

公認会計士 12名 その他 9名

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社は取締役の選任決議について、株主総会に議決権を行使することができる株主の議決権の 3 分の 1 以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨およびこの選任決議は、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

イ．自己の株式の取得

当社は自己の株式の取得について機動的な資本政策を遂行できるよう、会社法第165条第 2 項の規定に基づき、取締役会の決議によって自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

ロ．中間配当

当社は株主への機動的な利益還元ができるよう、会社法第454条第 5 項の規定に基づき、取締役会の決議によって毎年 9 月30日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は株主総会の特別決議事項の審議をより確実に行うことが可能となるよう会社法第309条第 2 項に定める特別決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の 3 分の 1 以上を有する株主が出席し、その議決権の 3 分の 2 以上をもって行う旨を定款に定めております。

取締役および監査役の責任免除

取締役および監査役がその期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第 1 項の規定により、取締役会の決議をもって、同法第423条第 1 項の取締役（取締役であった者を含む。）および監査役（監査役であった者を含む。）の責任を法令の限度において免除することができる旨を定款に定めております。

また、当社と社外取締役および社外監査役は、同法第427条第 1 項の規定に基づき、同法第423条第 1 項の賠償責任を限定する契約を締結できる旨を定款に定めております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第 1 項に定める最低責任限度額としております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	43	0	43	—
連結子会社	—	—	—	—
計	43	0	43	—

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

当社は会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務である、海外税務に関するアドバイザリー業務等に係る助言業務を委託し対価を支払っております。

当連結会計年度

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

会計監査人に対する報酬額の決定に関する方針は、代表取締役が監査法人から提出される監査計画の妥当性を総合的に勘案し、監査役会の同意を得て決定することとしております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第3条第2項により、改正前の連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、当事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表に含まれる比較情報については、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則等の一部を改正する内閣府令」(平成24年9月21日内閣府令第61号)附則第2条第2項により、改正前の財務諸表等規則に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)の財務諸表について、新日本有限責任監査法人により監査を受けております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。

具体的には、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位 百万円：未満四捨五入)

	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成26年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,433	5,785
受取手形及び売掛金	25,120	24,478
商品及び製品	15,900	19,205
仕掛品	473	412
原材料及び貯蔵品	3,415	4,517
繰延税金資産	1,326	1,211
その他	2,429	1,341
貸倒引当金	44	42
流動資産合計	57,054	56,907
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	11,619	11,528
機械装置及び運搬具（純額）	28,326	28,313
土地	3 4,512	4,540
リース資産（純額）	6	632
建設仮勘定	2,625	19,722
その他（純額）	1,671	1,776
有形固定資産合計	2 48,762	2 66,511
無形固定資産		
特許権	6	8
のれん	4 134	4 97
その他	348	391
無形固定資産合計	489	496
投資その他の資産		
投資有価証券	1, 3 2,775	1, 3 3,134
繰延税金資産	2,269	2,053
その他	1,018	1,165
貸倒引当金	189	159
投資その他の資産合計	5,873	6,193
固定資産合計	55,125	73,200
資産合計	112,180	130,107

(単位 百万円：未満四捨五入)

	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成26年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 16,018	3 15,254
短期借入金	3 6,072	10,868
リース債務	1	44
未払費用	2,510	2,275
未払法人税等	2,646	4,472
賞与引当金	1,229	1,364
役員賞与引当金	85	103
修繕引当金	701	373
その他	3,883	4,069
流動負債合計	33,148	38,822
固定負債		
長期借入金	3,962	3,850
リース債務	5	588
繰延税金負債	1,944	2,562
退職給付引当金	5,935	-
退職給付に係る負債	-	5,481
役員退職慰労引当金	100	104
資産除去債務	905	1,155
その他	731	775
固定負債合計	13,587	14,515
負債合計	46,735	53,337
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,989	17,989
資本剰余金	13,879	13,879
利益剰余金	34,550	40,815
自己株式	197	202
株主資本合計	66,222	72,481
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	471	700
繰延ヘッジ損益	48	3
為替換算調整勘定	1,204	3,349
退職給付に係る調整累計額	-	231
その他の包括利益累計額合計	780	4,283
少数株主持分	2	6
純資産合計	65,444	76,770
負債純資産合計	112,180	130,107

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位 百万円：未満四捨五入)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
売上高	91,976	111,151
売上原価	1, 3 65,313	1, 3 78,258
売上総利益	26,662	32,893
販売費及び一般管理費	2, 3 14,803	2, 3 16,664
営業利益	11,859	16,229
営業外収益		
受取利息	16	14
受取配当金	84	91
受取賃貸料	111	109
受取保険金	88	69
有価物売却益	38	39
為替差益	487	507
その他	65	54
営業外収益合計	892	883
営業外費用		
支払利息	224	200
貸与資産減価償却費	33	31
持分法による投資損失	61	-
損害賠償金等	-	133
その他	55	36
営業外費用合計	375	400
経常利益	12,375	16,712
特別利益		
固定資産売却益	4 3	4 5
投資有価証券売却益	417	3
国庫補助金等収入	117	1
特別利益合計	538	9
特別損失		
固定資産処分損	5 243	5 556
投資有価証券評価損	4	-
その他	5	10
特別損失合計	253	566
税金等調整前当期純利益	12,660	16,155
法人税、住民税及び事業税	4,290	5,105
過年度法人税等	-	6 2,612
法人税等調整額	106	258
法人税等合計	4,397	7,975
少数株主損益調整前当期純利益	8,262	8,180
少数株主利益	104	162
当期純利益	8,158	8,018

【連結包括利益計算書】

(単位 百万円：未満四捨五入)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	8,262	8,180
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	284	229
繰延ヘッジ損益	58	51
為替換算調整勘定	2,254	4,553
その他の包括利益合計	2,479	4,833
包括利益	10,742	13,013
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	10,638	12,851
少数株主に係る包括利益	104	162

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

(単位 百万円：未満四捨五入)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	17,989	13,879	27,581	195	59,254
当期変動額					
剰余金の配当			1,168		1,168
当期純利益			8,158		8,158
自己株式の取得				1	1
連結範囲の変動			20		20
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					—
当期変動額合計	-	-	6,969	1	6,967
当期末残高	17,989	13,879	34,550	197	66,222

	その他の包括利益累計額				少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	187	10	3,458	3,260	2	55,996
当期変動額						
剰余金の配当						1,168
当期純利益						8,158
自己株式の取得						1
連結範囲の変動						20
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	284	58	2,254	2,479	0	2,479
当期変動額合計	284	58	2,254	2,479	0	9,447
当期末残高	471	48	1,204	780	2	65,444

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位 百万円：未満四捨五入)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	17,989	13,879	34,550	197	66,222
当期変動額					
剰余金の配当			1,753		1,753
当期純利益			8,018		8,018
自己株式の取得				5	5
連結範囲の変動			-		-
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	6,264	5	6,259
当期末残高	17,989	13,879	40,815	202	72,481

	その他の包括利益累計額					少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ損益	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括 利益累計額合計		
当期首残高	471	48	1,204	-	780	2	65,444
当期変動額							
剰余金の配当							1,753
当期純利益							8,018
自己株式の取得							5
連結範囲の変動							-
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）	229	51	4,553	231	5,064	3	5,067
当期変動額合計	229	51	4,553	231	5,064	3	11,327
当期末残高	700	3	3,349	231	4,283	6	76,770

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位 百万円：未満四捨五入)

	前連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	12,660	16,155
減価償却費	6,933	7,129
のれん償却額	113	67
貸倒引当金の増減額 (は減少)	64	31
賞与引当金の増減額 (は減少)	96	136
退職給付引当金の増減額 (は減少)	142	5,935
退職給付に係る負債の増減額 (は減少)	-	5,713
為替差損益 (は益)	178	217
受取利息及び受取配当金	101	105
支払利息	224	200
持分法による投資損益 (は益)	61	-
固定資産処分損益 (は益)	243	554
固定資産売却損益 (は益)	0	5
国庫補助金等収入	117	1
投資有価証券評価損益 (は益)	4	-
投資有価証券売却損益 (は益)	417	3
売上債権の増減額 (は増加)	468	1,258
たな卸資産の増減額 (は増加)	1,533	2,919
仕入債務の増減額 (は減少)	1,030	1,333
その他債権債務の増減額	238	231
その他	387	208
小計	18,778	20,224
利息及び配当金の受取額	101	105
利息の支払額	229	237
法人税等の支払額	2,284	5,942
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,365	14,150
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	638	-
定期預金の払戻による収入	-	789
投資有価証券の取得による支出	1	5
投資有価証券の売却による収入	683	8
固定資産の取得による支出	10,772	20,263
固定資産の売却による収入	18	4
国庫補助金等による収入	117	1
貸付けによる支出	3	-
貸付金の回収による収入	17	212
その他投資資産の売却による収入	0	25
長期前払費用の取得による支出	6	278
差入保証金の回収による収入	83	-
その他	54	526
投資活動によるキャッシュ・フロー	10,557	20,033

(単位 百万円：未満四捨五入)

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少）	174	6,241
長期借入れによる収入	100	3,159
長期借入金の返済による支出	1,967	5,524
自己株式の取得による支出	1	5
配当金の支払額	1,168	1,753
少数株主への配当金の支払額	104	102
その他	2	20
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,319	1,996
現金及び現金同等物に係る換算差額	425	954
現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	2,914	2,933
現金及び現金同等物の期首残高	5,637	8,677
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額（ は減少）	125	-
現金及び現金同等物の期末残高	8,677	5,744

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及びその主要な会社名

連結子会社の数 15社

主要な連結子会社名は、「第1 企業の概況」の4 関係会社の状況に記載しているため省略しております。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用会社の数及びその主要な会社名

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用しない主要な会社名

関連会社 (株)鶴城サンソセンター

(3) 持分法を適用しない会社について、適用から除いた理由

持分法非適用会社は、小規模であり、また、全体としても当期純損益及び利益剰余金等に重要な影響を及ぼさないもので、持分法適用会社から除外しております。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

大成化薬(株)、NIPPON GOHSEI(U.S.A.)Co., Ltd.、NOLTEX L.L.C.、SOARUS L.L.C.、NIPPON GOHSEI UK Ltd.、NIPPON GOHSEI Europe GmbHにつきましては、当連結会計年度において決算日を12月31日から3月31日に変更しているため、同社の平成25年12月31日を決算日とする12カ月間の財務諸表に平成26年3月31日を決算日とする3カ月間の財務諸表を合算したものを基礎として、連結財務諸表を作成しております。

また、関西化学工業(株)他8社の決算日は12月31日であり、連結財務諸表の作成に当たっては、同日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結決算上必要な調整を行っております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

〔有価証券〕

その他有価証券

時価のあるもの

期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの

移動平均法による原価法

〔デリバティブ〕

デリバティブ

時価法

〔棚卸資産〕

商品及び製品、仕掛品、原材料

総平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品

移動平均法による原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

〔有形固定資産〕（リース資産を除く）

定額法

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 8～50年

機械装置及び運搬具 2～18年

〔無形固定資産〕

定額法

なお、自社利用ソフトウェアの耐用年数については、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

〔リース資産〕

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

〔貸倒引当金〕

当社及び国内連結子会社は、売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

〔賞与引当金〕

当社及び国内連結子会社は、従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

〔役員賞与引当金〕

当社及び国内連結子会社は、役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、役員賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

〔修繕引当金〕

当社は水島工場の定期修理に要する修繕費用の支出に備えるため、その発生見込額のうち、当連結会計年度に負担すべき金額を計上しております。

〔役員退職慰労引当金〕

役員の退職慰労金の支給に備えるため、国内連結子会社の一部は役員退職慰労金規程に基づく期末要支給額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっております。

数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

過去勤務費用は、その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(4年)による定額法により費用処理しております。

数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(4年)による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理することとしております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び少数株主持分に含めて計上しております。

(6) 重要な収益及び費用の計上基準

〔完成工事高の計上基準〕

当連結会計年度末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準（工事の進捗率の見積りは原価比例法）を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建金銭債権・債務
金利スワップ	借入金利息

ヘッジ方針

当社グループ(当社及び連結子会社)は、外貨建金銭債権債務に係る為替相場の変動リスクを回避する目的で為替予約取引を、将来の市場金利変動リスクの回避または金利負担の低減を図る目的で金利スワップ取引を行っております。

当社グループ(当社及び連結子会社)は、デリバティブ取引の限度額を実需の範囲とする方針であり、投機目的のデリバティブ取引は行わないものとしております。

ヘッジの有効性評価の方法

各取引ごとに契約額、時価、時価算出根拠に基づきヘッジの有効性評価を6ヶ月毎に行っております。

その他のリスク管理方法のうちヘッジ会計に係るもの

為替予約取引は、社内規程として明文化された「外国為替管理規程」及び「市場リスク管理規程」に基づき実施しており、取引の実施に際して、経理担当部署は営業部門と事前に協議を行い、その利用目的、利用範囲等を確認し、その実施状況の報告を受けております。

金利スワップ取引は、「市場リスク管理規程」に基づき実施しており、市場リスク管理に係る状況の報告については、経理担当部署が必要に応じ経営会議に報告しております。

(8) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金(現金及び現金同等物)は、手許現金、随時引出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(9) のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、5年間の均等償却を行っております。なお、平成22年3月31日以前に発生した負ののれんについては、5年間の均等償却を行っております。

(10) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

当連結会計年度末より、「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を適用しております。(ただし、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めを除く。)

これらの会計基準等の適用により、退職給付債務から年金資産の額を控除した額を退職給付に係る負債として計上する方法に変更し、未認識数理計算上の差異を退職給付に係る負債に計上しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度末において、当該変更に伴う影響額をその他の包括利益累計額の退職給付に係る調整累計額に加減しております。

この結果、当連結会計年度末において、退職給付に係る負債が54億81百万円計上されております。また、その他の包括利益累計額が2億31百万円増加しております。

なお、1株当たり情報に与える影響は当該箇所に記載しております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社においては、従来、有形固定資産の減価償却方法については、原則として定額法を採用するとともに、「OPLフィルム」製造設備等の一部の有形固定資産については定率法を採用していましたが、当連結会計年度より定額法に変更しております。

当社グループは既に公表している中期経営計画「Double 1 5 (ダブルフィフティーン)」で掲げた目標を達成するため、平成24年度において「OPLフィルム」製造設備の安定供給体制の構築を中心とした設備投資計画の見直しを実施しました。この見直しを契機とし、従前まで定率法を採用していた有形固定資産についても、今後は安定的に収益貢献が期待できること及び安定的に稼働することが見込まれることから、当該設備の収益獲得能力についても均等に期間配分することが望ましいと判断し、当連結会計年度より当社グループの減価償却方法を定額法に統一することとしました。

これにより従来の方法に比べて、当連結会計年度の営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益はそれぞれ6億56百万円増加しております。

(未適用の会計基準等)

- ・「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日)
- ・「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日)

(1) 概要

本会計基準等は、財務報告を改善する観点及び国際的な動向を踏まえ、未認識数理計算上の差異及び未認識過去勤務費用の処理方法、退職給付債務及び勤務費用の計算方法並びに開示の拡充を中心に改正されたものです。

(2) 適用予定日

退職給付債務及び勤務費用の計算方法の改正については、平成27年3月期の期首より適用予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

- 1 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
投資有価証券(株式)	1百万円	1百万円

- 2 有形固定資産の減価償却累計額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
	110,609百万円	119,715百万円

- 3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産及び担保付債務は、以下のとおりであります。

担保資産

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
土地	120百万円	—
投資有価証券	19百万円	29百万円
計	139百万円	29百万円

担保付債務

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
短期借入金	6百万円	—
買掛金	81百万円	74百万円
計	87百万円	74百万円

- 4 のれん及び負ののれんの表示

のれん及び負ののれんは、相殺表示しております。相殺前の金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
のれん	178百万円	110百万円
負ののれん	43百万円	13百万円
差引	134百万円	97百万円

- 5 保証債務(保証予約含む)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
長期借入金	5百万ドル	—
従業員住宅購入資金	464百万円	396百万円

(連結損益計算書関係)

- 1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下げ額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
売上原価	223百万円	218百万円

- 2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
運送費及び保管費	2,568百万円	3,012百万円
給与及び手当	3,331百万円	3,970百万円
貸倒引当金繰入額	3百万円	12百万円
賞与引当金繰入額	367百万円	381百万円
役員賞与引当金繰入額	84百万円	107百万円
退職給付費用	253百万円	198百万円
役員退職慰労引当金繰入額	25百万円	23百万円
租税公課	165百万円	170百万円
減価償却費	133百万円	190百万円
研究開発費	3,388百万円	3,458百万円
のれん償却額	113百万円	67百万円

- 3 一般管理費及び当期総製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
	3,643百万円	3,755百万円

- 4 固定資産売却益の内訳は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
機械装置及び運搬具	—	4百万円
その他	3百万円	0百万円

- 5 固定資産処分損の内容は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)
建物及び構築物	82百万円	368百万円
機械装置及び運搬具	140百万円	160百万円
その他	20百万円	28百万円

- 6 過年度法人税等

当社と米国・英国両製造子会社との技術料収入取引に関し、大阪国税局より移転価格税制に基づく更正処分の通知を受ける見込みとなったことから見積り計上しております。

(追加情報)

平成26年5月27日に更正通知を受領しましたが、追加納税額と見積計上額との差異は軽微でありました。当社は本更正処分を承服しがたく、同日付で異議申立を行っております。また、二重課税解消の観点から租税条約に基づく日米・日英当局間の相互協議の申請を行う予定です。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	441百万円	354百万円
組替調整額	—	0百万円
税効果調整前	441百万円	354百万円
税効果額	157百万円	126百万円
その他有価証券評価差額金	284百万円	229百万円
繰延ヘッジ損益		
当期発生額	118百万円	8百万円
組替調整額	44百万円	57百万円
税効果調整前	74百万円	65百万円
税効果額	15百万円	14百万円
繰延ヘッジ損益	58百万円	51百万円
為替換算調整勘定		
当期発生額	2,254百万円	4,553百万円
組替調整額	—	—
税効果調整前	2,254百万円	4,553百万円
税効果額	—	—
為替換算調整勘定	2,254百万円	4,553百万円
その他の包括利益合計	2,479百万円	4,833百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式に関する事項

(単位:株)

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度		当連結会計年度末 株式数
		増加株式数	減少株式数	
発行済株式				
普通株式	98,369,186	—	—	98,369,186
合 計	98,369,186	—	—	98,369,186
自己株式				
普通株式(注)	959,367	3,140	—	962,507
合 計	959,367	3,140	—	962,507

(注) 普通株式の自己株式の増加3,140株は、単元未満株式の買取によるものであります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年6月22日 定時株主総会	普通株式	584	6	平成24年3月31日	平成24年6月25日
平成24年10月31日 取締役会	普通株式	584	6	平成24年9月30日	平成24年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月20日 定時株主総会	普通株式	876	9	平成25年3月31日	平成25年6月21日	利益剰余金

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式に関する事項

(単位：株)

株式の種類	当連結会計年度期首 株式数	当連結会計年度		当連結会計年度末 株式数
		増加株式数	減少株式数	
発行済株式				
普通株式	98,369,186	—	—	98,369,186
合 計	98,369,186	—	—	98,369,186
自己株式				
普通株式(注)	962,507	4,468	—	966,975
合 計	962,507	4,468	—	966,975

(注) 普通株式の自己株式の増加4,468株は、単元未満株式の買取によるものであります。

2 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成25年6月20日 定時株主総会	普通株式	876	9	平成25年3月31日	平成25年6月21日
平成25年10月30日 取締役会	普通株式	876	9	平成25年9月30日	平成25年12月5日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月19日 定時株主総会	普通株式	876	9	平成26年3月31日	平成26年6月20日	利益剰余金

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
現金及び預金	8,433百万円	5,785百万円
預入期間が3カ月を超える 定期預金	734百万円	42百万円
その他	979百万円	1百万円
現金及び現金同等物	8,677百万円	5,744百万円

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(1) リース資産の内容

有形固定資産

主として、機械装置であります。

(2) リース資産の減価償却の方法

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1年内	52	60
1年超	481	492
合計	533	553

3 減損損失について

リース資産に配分された減損損失はありません。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、主に有機化学工業製品の製造販売事業を行うための投融資計画に照らして、必要な資金を調達しております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、また、短期的な運転資金を銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は、後述するリスクを回避するために利用しており、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

営業債権である受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては「取引に関する与信関係規則」に従い、主な取引先の信用状況を一定期間ごとに把握する体制としております。また、グローバルな事業展開から生じる外貨建て営業債権は、為替の変動リスクに晒されていますが、先物為替予約を利用して為替変動リスクをヘッジしております。

投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されていますが、主に業務上の関係を有する企業の株式であり、定期的に把握した時価を経営会議に報告しております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、1年以内の支払期日であります。また、その一部には原料等の輸入に伴う外貨建てのものがあり、為替の変動リスクに晒されていますが、恒常的に同一通貨建ての売掛金残高の範囲内にあります。

借入金のうち、短期借入金は主に営業取引に係る資金調達であり、長期借入金は主に設備投資に係る資金調達であります。このうち一部は変動金利であるため、金利の変動リスクに晒されていますが、デリバティブ取引（金利スワップ取引）を利用して金利変動リスクをヘッジしております。

デリバティブ取引は、外貨建ての営業債権債務に係る為替の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした先物為替予約取引、借入金に係る支払金利の変動リスクに対するヘッジ取引を目的とした金利スワップ取引であります。これらのデリバティブ取引については、「外国為替管理規程」及び「市場リスク管理規程」に基づき実施しており、市場リスクに係る状況については、必要に応じ経営会議に報告しております。

なお、ヘッジ会計に関するヘッジ手段とヘッジ対象、ヘッジ方針、ヘッジの有効性の評価方法等については、前述の「会計処理基準に関する事項」に記載されている「重要なヘッジ会計の方法」をご覧ください。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価値がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。また、「デリバティブ取引関係」注記におけるデリバティブ取引に関する契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは次表には含まれておりません（（注2）を参照してください）。

前連結会計年度（平成25年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価 （百万円）	差額 （百万円）
(1)現金及び預金	8,433	8,433	—
(2)受取手形及び売掛金	25,120	25,120	—
(3)投資有価証券 その他有価証券	2,201	2,201	—
資産計	35,754	35,754	—
(1)支払手形及び買掛金	16,018	16,018	—
(2)短期借入金	6,072	6,072	—
(3)長期借入金	3,962	3,992	29
負債計	26,053	26,082	29
デリバティブ取引（ ）	84	84	—

（ ）デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした合計を表示しております。

当連結会計年度（平成26年3月31日）

	連結貸借対照表計上額 （百万円）	時価 （百万円）	差額 （百万円）
(1)現金及び預金	5,785	5,785	—
(2)受取手形及び売掛金	24,478	24,478	—
(3)投資有価証券 その他有価証券	2,560	2,560	—
資産計	32,823	32,823	—
(1)支払手形及び買掛金	15,254	15,254	—
(2)短期借入金	10,868	10,868	—
(3)長期借入金	3,850	3,830	19
負債計	29,972	29,952	19
デリバティブ取引（ ）	26	26	—

（ ）デリバティブ取引は、債権・債務を差し引きした合計を表示しております。

（注1）金融商品の時価の算定方法並びに有価証券及びデリバティブ取引に関する事項

資産

(1)現金及び預金、並びに(2)受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)投資有価証券

これらの時価について、株式は取引所の価格によっております。

また、保有目的ごとの有価証券に関する注記事項については、「有価証券関係」注記を参照してください。

負債

(1)支払手形及び買掛金、並びに(2)短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3)長期借入金

長期借入金の時価については、元利金の合計額を、新規に同様の借入を行った場合に想定される利率で割引いた現在価値により算定しております。

デリバティブ取引

「デリバティブ取引関係」注記を参照してください。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表額

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
非上場株式等	574	571

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められるため、「(3)投資有価証券
その他有価証券」には含めておりません。

(注3) 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	1年以内 (百万円)
預金	8,419
受取手形及び売掛金	25,120
合計	33,539

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年以内 (百万円)
預金	5,778
受取手形及び売掛金	24,478
合計	30,256

(注4) 長期借入金の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(平成25年3月31日)

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	3,353	424	185	—	—

当連結会計年度(平成26年3月31日)

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	989	2,861	—	—	—

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(平成25年3月31日)

区分		連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	1,912	1,114	798
	小計	1,912	1,114	798
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	288	353	64
	小計	288	353	64
合計		2,201	1,467	733

(注) 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価の50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合には、回復可能性等を総合的に判断して必要と認められた額について減損処理を行うものとしております。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

区分		連結決算日における 連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	2,294	1,165	1,128
	小計	2,294	1,165	1,128
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えないもの	株式	266	307	40
	小計	266	307	40
合計		2,560	1,472	1,088

(注) 減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価の50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30%以上50%未満下落した場合には、回復可能性等を総合的に判断して必要と認められた額について減損処理を行うものとしております。

2 連結会計年度中に売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	0	—	0
合計	0	—	0

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

区分	売却額 (百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
株式	7	3	—
合計	7	3	—

(デリバティブ取引関係)

1 ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成25年 3 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(平成26年 3 月31日)

(単位：百万円)

	種類	契約額等	契約額等のうち 1 年超	時価	評価損益
市場取引 以外の取引	為替予約取引 売建				
	米ドル	244	—	1	1
	ユーロ	513	—	4	4
合計		757	—	5	5

(注) 時価の算定方法：取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2)地震デリバティブ関連

商品の性格上、時価評価額の算定は行っておりません。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

(1) 通貨関連

前連結会計年度(平成25年 3 月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の 方法	デリバティブ 取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1 年超	時価
為替予約等 の振当処理	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	214	—	1
	ユーロ		420	—	10
原 則 的 処理方法	為替予約取引 売建				
	米ドル	売掛金	10	—	0
	ユーロ		364	—	12
	買建 英ポンド	買掛金	60	—	0
合計			1,070	—	23

(注) 時価の算定方法：取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成26年 3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
原則的 処理方法	為替予約取引 売建	売掛金	587	—	2
	ユーロ 買建				
	英ポンド	買掛金	524	—	1
	日本円	未払金	85	—	0
合計			1,197	—	4

(注) 時価の算定方法：取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(2) 金利関連

前連結会計年度(平成25年 3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,568	1,284	36
原則的 処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	2,408	1,147	72
合計			4,976	2,431	108

(注) 時価の算定方法：取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

当連結会計年度(平成26年 3月31日)

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	デリバティブ取引の種類等	主なヘッジ対象	契約額等	契約額等のうち 1年超	時価
金利スワップの特例処理	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	1,284	—	8
原則的 処理方法	金利スワップ取引 支払固定・受取変動	長期借入金	1,337	1,337	7
合計			2,621	1,337	16

(注) 時価の算定方法：取引金融機関から提示された価格等に基づき算定しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、キャッシュバランス型企业年金制度、退職一時金制度を設けております。

また、一部の在外連結子会社は、確定拠出型制度を設けております。

2 退職給付債務に関する事項

(単位:百万円)

(1) 退職給付債務 (内訳)	11,666
(2) 未認識過去勤務債務	7
(3) 未認識数理計算上の差異	239
(4) 年金資産	5,499
(5) 退職給付引当金	5,935

(注) 国内連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

3 退職給付費用に関する事項

(単位:百万円)

(1) 勤務費用	527
(2) 利息費用	203
(3) 期待運用収益	115
(4) 過去勤務債務の費用処理額	7
(5) 数理計算上の差異の費用処理額	239
(6) 退職給付費用	846

(注) 1 簡便法を採用している国内連結子会社の退職給付費用は「(1)勤務費用」に計上しております。
2 上記退職給付費用以外に、確定拠出型の退職給付費用として138百万円を計上しております。

4 退職給付債務等の計算の基礎に関する事項

(1)退職給付見込額の期間配分方法

期間定額基準

(2)割引率 1.4%

(3)期待運用収益率 2.5%

(4)過去勤務債務の額の処理年数

4年(発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額を費用処理する方法)

(5)数理計算上の差異の処理年数

4年(各連結会計年度の発生時の従業員平均残存勤務期間以内の一定の年数による按分額をそれぞれ発生した翌連結会計年度から費用処理する方法)

当連結会計年度（自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日）

1 採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社は、確定給付型の制度として、キャッシュバランス型企业年金制度、退職一時金制度を設けております。

また、一部の在外連結子会社は、確定拠出型制度を設けております。

2 確定給付制度（簡便法を適用した制度を除く。）

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

退職給付債務の期首残高	10,817	百万円
勤務費用	478	"
利息費用	152	"
数理計算上の差異の発生額	30	"
退職給付の支払額	506	"
退職給付債務の期末残高	10,912	"

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

年金資産の期首残高	5,499	百万円
期待運用収益	93	"
数理計算上の差異の発生額	547	"
事業主からの拠出額	419	"
退職給付の支払額	248	"
年金資産の期末残高	6,311	"

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

積立型制度の退職給付債務	5,746	百万円
年金資産	6,311	"
	565	"
非積立型制度の退職給付債務	5,166	"
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,601	"

退職給付に係る負債	4,601	百万円
退職給付に係る資産	—	"
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	4,601	"

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

勤務費用	478	百万円
利息費用	152	"
期待運用収益	93	"
数理計算上の差異の費用処理額	21	"
過去勤務費用の費用処理額	7	"
確定給付制度に係る退職給付費用	552	"

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目（税効果控除前）の内訳は次のとおりであります。

未認識数理計算上の差異	360	百万円
合計	360	"

(6) 年金資産に関する事項

年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

債券	42 %
株式	51 %
その他	7 %
合計	100 %

長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率を決定するため、現在及び予想される年金資産の配分と、年金資産を構成する多様な資産からの現在及び将来期待される長期の収益率を考慮しております。

(7) 数理計算上の計算基礎に関する事項

当連結会計年度末における主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表している。）

割引率	1.4 %
長期期待運用収益率	1.7 %

3 簡便法を適用した確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

退職給付に係る負債の期首残高	849	百万円
退職給付費用	92	"
退職給付の支払額	25	"
制度への拠出額	35	"
退職給付に係る負債の期末残高	880	"

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

非積立型制度の退職給付債務	880	百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	880	"
退職給付に係る負債	880	百万円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	880	"

(3) 退職給付費用

簡便法で計算した退職給付費用	92	百万円
----------------	----	-----

4 確定拠出制度

一部在外連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、263百万円であります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成25年 3 月31日)		当連結会計年度 (平成26年 3 月31日)	
繰延税金資産				
退職給付引当金	2,092	百万円	—	百万円
退職給付に係る負債	—	百万円	2,046	百万円
繰越欠損金	744	百万円	267	百万円
賞与引当金	464	百万円	485	百万円
修繕引当金	266	百万円	132	百万円
その他	1,574	百万円	1,466	百万円
繰延税金資産小計	5,142	百万円	4,397	百万円
評価性引当額	251	百万円	244	百万円
繰延税金資産合計	4,890	百万円	4,153	百万円

繰延税金負債

減価償却費	2,561	百万円	2,596	百万円
固定資産圧縮積立金	172	百万円	165	百万円
その他有価証券評価差額金	261	百万円	388	百万円
その他	242	百万円	301	百万円
繰延税金負債合計	3,239	百万円	3,451	百万円
繰延税金資産の純額	1,651	百万円	702	百万円

(注) 前連結会計年度及び当連結会計年度における繰延税金資産の純額は、連結貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当連結会計年度 (平成26年3月31日)	
流動資産—繰延税金資産	1,326	百万円	1,211	百万円
固定資産—繰延税金資産	2,269	百万円	2,053	百万円
流動負債—繰延税金負債	—	百万円	—	百万円
固定負債—繰延税金負債	1,944	百万円	2,562	百万円

2 法人税等の税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の内訳

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
当社の法定実効税率と海外連結子会社の税率差異	2.6%	2.4%
交際費等の永久に損金に算入されない項目	0.7%	0.6%
評価性引当額の増減	0.0%	0.0%
税額控除	2.0%	1.3%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—	0.6%
過年度法人税等	—	16.2%
その他	0.6%	2.3%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.7%	49.4%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は平成27年3月31日までに解消が見込まれるものについては、38.0%から35.6%に変更しております。

なお、平成27年4月1日以後開始する連結会計年度において解消が見込まれる一時差異等についての繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率の変更はありません。

この法定実効税率の変更により、当連結会計年度末の繰延税金資産の金額は88百万円減少し、法人税等調整額が88百万円増加しております。

(資産除去債務関係)

前連結会計年度(平成25年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(平成26年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

前連結会計年度(自平成24年4月1日至平成25年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自平成25年4月1日至平成26年3月31日)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定および業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、本社に営業本部を置き、営業本部が取り扱う製品について国内および海外の包括的な戦略を立案し、事業活動を展開しております。

従って、当社は製品別セグメントから構成されており、「合成樹脂」および「有機合成」の2つを報告セグメントとしております。

「合成樹脂」は基礎化学品を原料とした合成樹脂およびその加工品を生産・販売しており、「有機合成」は主に基礎化学品、酢酸の派生製品およびその加工品を生産・販売しております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告セグメントの利益は営業利益であります。セグメント間の内部売上高および振替高は市場価格等に基づいております。

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)に記載のとおり、当社および国内連結子会社においては、当連結会計年度より、有形固定資産の減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。当該変更により、従来の方法に比べて、当連結会計年度の「合成樹脂」セグメント利益は563百万円、「有機合成」セグメント利益は87百万円、「その他」セグメント利益は4百万円それぞれ増加しております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額 (注) 3
	合成樹脂	有機合成	計				
売上高							
外部顧客への売上高	67,113	20,643	87,756	4,219	91,976	—	91,976
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,064	2,038	3,103	3,954	7,057	7,057	—
計	68,178	22,681	90,860	8,174	99,034	7,057	91,976
セグメント利益	11,837	174	12,011	243	12,254	395	11,859
セグメント資産	86,503	17,508	104,012	3,449	107,461	4,718	112,180
その他の項目							
減価償却費	6,283	537	6,820	77	6,898	70	6,828
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	9,850	660	10,511	55	10,566	77	10,489

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、設備工事、保守、環境分析および物流サービス事業等を含んでおります。

2 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 395百万円には、セグメント間取引消去24百万円、各報告セグメントに配分していない全社共通費用 420百万円が含まれております。全社共通費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費および研究開発費であります。

(2) セグメント資産の調整額4,718百万円の主なものは、現金及び預金2,087百万円、繰延税金資産3,155百万円等であります。

(3) 減価償却費の調整額 70百万円はセグメント間消去額であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額 77百万円はセグメント間消去額であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当連結会計年度(自 平成25年 4月 1日 至 平成26年 3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	連結財務諸 表計上額 (注) 3
	合成樹脂	有機合成	計				
売上高							
外部顧客への売上高	83,560	23,754	107,314	3,836	111,151	—	111,151
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,107	2,849	3,956	3,425	7,381	7,381	—
計	84,667	26,603	111,271	7,261	118,532	7,381	111,151
セグメント利益	16,407	49	16,457	218	16,675	446	16,229
セグメント資産	105,131	17,673	122,803	3,140	125,943	4,164	130,107
その他の項目							
減価償却費	6,712	408	7,120	84	7,204	173	7,031
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	19,902	462	20,365	93	20,458	195	20,263

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、設備工事、保守、環境分析および物流サービス事業等を含んでおります。

2 調整額は以下のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 446百万円には、セグメント間取引消去8百万円、各報告セグメントに配分していない全社共通費用 454百万円が含まれております。全社共通費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費および研究開発費であります。

(2) セグメント資産の調整額4,164百万円の主なもの、現金及び預金1,773百万円、繰延税金資産2,895百万円等であります。

(3) 減価償却費の調整額 173百万円はセグメント間消去額であります。

(4) 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額 195百万円はセグメント間消去額であります。

3 セグメント利益は、連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成24年 4月 1日 至 平成25年 3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	韓国	米国	欧州	その他	合計
46,482	13,081	8,344	11,922	12,145	91,976

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	米国	英国	その他	合計
31,759	3,935	12,722	344	48,762

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱商事株式会社	11,615	合成樹脂

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：百万円)

日本	韓国	米国	欧州	その他	合計
51,727	13,455	12,211	18,066	15,690	111,151

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(2) 有形固定資産

(単位：百万円)

日本	米国	英国	その他	合計
35,600	16,448	14,423	40	66,511

3 主要な顧客ごとの情報

(単位：百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
三菱商事株式会社	12,131	合成樹脂

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	合成樹脂	有機合成	計			
(のれん)						
当期償却額	139	—	139	—	—	139
当期末残高	178	—	178	—	—	178
(負ののれん)						
当期償却額	—	25	25	—	—	25
当期末残高	—	43	43	—	—	43

(注) 負ののれんの償却額および未償却残高は、平成22年4月1日前行われた企業結合により発生したものであります。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他	全社・消去	合計
	合成樹脂	有機合成	計			
(のれん)						
当期償却額	98	—	98	—	—	98
当期末残高	110	—	110	—	—	110
(負ののれん)						
当期償却額	—	31	31	—	—	31
当期末残高	—	13	13	—	—	13

(注) 負ののれんの償却額および未償却残高は、平成22年4月1日前行われた企業結合により発生したものであります。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

1 関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者の取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び主要株主(会社等に限る)等

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	三菱化学㈱	東京都千代田区	50,000	各種化学製品製造・販売	(被所有) 直接 50.9	同社製品の購入 役員の兼任	原料品の購入	7,905	支払手形及び買掛金	2,213

取引条件及び取引条件の決定方針等

原料品の購入は、四半期毎に価格交渉の上、市場価格を参考に決定しております。

(注) 取引金額には、消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
親会社	三菱化学㈱	東京都千代田区	50,000	各種化学製品製造・販売	(被所有) 直接 50.9	同社製品の購入 役員の兼任	原料品の購入	9,885	支払手形及び買掛金	2,029

取引条件及び取引条件の決定方針等

原料品の購入は、四半期毎に価格交渉の上、市場価格を参考に決定しております。

(注) 取引金額には、消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

(イ) 連結財務諸表提出会社と同一の親会社を持つ会社等及び連結財務諸表提出会社のその他の関係会社の子会社等

前連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)

該当事項はありません。

(2) 連結財務諸表提出会社の連結子会社と関連当事者との取引

該当事項はありません。

2 親会社又は重要な関連会社に関する注記

(1) 親会社情報

(株)三菱ケミカルホールディングス(東京証券取引所に上場)

三菱化学㈱(非上場)

(2) 重要な関連会社の要約財務情報

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
1株当たり純資産額	671円84銭	788円11銭
1株当たり当期純利益金額	83円75銭	82円32銭

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 「会計方針の変更」に記載のとおり、退職給付会計基準等を適用し、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従っております。
この結果、当連結会計年度の1株当たり純資産が2円37銭増加しております。
3 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)	当連結会計年度 (自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)
1株当たり当期純利益金額		
当期純利益(百万円)	8,158	8,018
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	8,158	8,018
普通株式の期中平均株式数(千株)	97,408	97,403

4. 1株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当連結会計年度 (平成26年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	65,444	76,770
純資産の部の合計額から控除する金額 (百万円)	2	6
(うち少数株主持分)(百万円)	(2)	(6)
普通株式に係る期末の純資産額(百万円)	65,441	76,764
1株当たり純資産額の算定に用いられた 期末の普通株式の数(千株)	97,406	97,402

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	2,056	8,612	0.6	—
1年以内に返済予定の長期借入金	4,015	2,256	1.6	—
1年以内に返済予定のリース債務	1	44	—	—
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)	3,962	3,850	1.2	平成27年～平成29年
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)	5	588	—	平成27年～平成40年
その他有利子負債	—	—	—	—
合計	10,042	15,350	—	—

- (注) 1 平均利率については、期末残高に対する加重平均利率を表示しております。
- 2 1年以内に返済予定のリース債務、リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の「平均利率」については、リース資産総額の重要性が乏しいと認められる場合の取扱いに基づき利息相当額を含むリース料総額をリース債務に計上している為、記載を省略しております。
- 3 1年以内に返済予定の長期借入金、長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)には、熊本県宇土市からの無利息融資である地域総合整備資金を含み、残高はそれぞれ115百万円、60百万円であります。
- 4 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く)、リース債務(1年以内に返済予定のものを除く)の連結決算日後5年以内における返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	989	2,861	—	—
リース債務	44	43	43	43

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	当連結会計年度
売上高 (百万円)	24,242	49,439	74,898	111,151
税金等調整前 四半期 (当期) 純利益金額 (百万円)	4,166	7,976	11,887	16,155
四半期 (当期) 純利益金額 (百万円)	2,778	5,269	7,810	8,018
1 株当たり 四半期 (当期) 純利益金額 (円)	28.52	54.09	80.18	82.32

(会計期間)	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期
1 株当たり 四半期純利益金額 (円)	28.52	25.57	26.09	2.14

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位 百万円：未満切捨て)

	第130期 (平成25年 3 月31日)	第131期 (平成26年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,087	1,773
受取手形	1,299	1,431
売掛金	¹ 16,555	¹ 16,093
商品及び製品	11,180	11,315
仕掛品	233	274
原材料及び貯蔵品	2,458	3,193
前払費用	161	187
繰延税金資産	1,234	1,053
短期貸付金	1,548	829
その他	876	659
流動資産合計	37,635	36,811
固定資産		
有形固定資産		
建物	17,889	17,939
構築物	9,996	10,411
機械及び装置	76,834	77,300
車両運搬具	336	360
工具、器具及び備品	7,074	7,469
土地	3,549	3,549
リース資産	-	645
建設仮勘定	2,009	6,431
減価償却累計額	87,761	90,432
有形固定資産合計	29,929	33,675
無形固定資産		
特許権	6	7
ソフトウェア	172	220
施設利用権	19	19
その他	82	82
無形固定資産合計	281	330

(単位 百万円：未満切捨て)

	第130期 (平成25年 3 月31日)	第131期 (平成26年 3 月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	2,603	2,904
関係会社株式	15,113	15,113
関係会社出資金	71	71
長期貸付金	611	3
長期前払費用	63	226
繰延税金資産	1,921	1,841
差入保証金	159	158
その他	158	140
貸倒引当金	24	25
投資その他の資産合計	20,678	20,435
固定資産合計	50,889	54,440
資産合計	88,524	91,252
負債の部		
流動負債		
支払手形	12	17
買掛金	1 8,984	1 8,536
短期借入金	4,648	5,637
未払金	3,900	3,763
未払費用	1,209	1,539
未払法人税等	2,795	4,579
リース債務	-	43
賞与引当金	1,151	1,255
役員賞与引当金	70	90
修繕引当金	701	372
その他	72	98
流動負債合計	23,546	25,934
固定負債		
長期借入金	2,815	659
退職給付引当金	5,086	4,960
リース債務	-	584
長期預り保証金	383	436
固定負債合計	8,285	6,640
負債合計	31,831	32,574

(単位 百万円：未満切捨て)

	第130期 (平成25年 3 月31日)	第131期 (平成26年 3 月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	17,989	17,989
資本剰余金		
資本準備金	13,878	13,878
その他資本剰余金	0	0
資本剰余金合計	13,879	13,879
利益剰余金		
利益準備金	1,072	1,072
その他利益剰余金		
固定資産圧縮積立金	281	269
別途積立金	17,780	20,580
繰越利益剰余金	5,435	4,451
利益剰余金合計	24,569	26,372
自己株式	197	201
株主資本合計	56,241	58,040
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	443	639
繰延ヘッジ損益	7	1
評価・換算差額等合計	450	637
純資産合計	56,692	58,678
負債純資産合計	88,524	91,252

【損益計算書】

(単位 百万円：未満切捨て)

	第130期 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	第131期 (自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)
売上高	1 59,113	1 64,149
売上原価	40,948	1 42,550
売上総利益	18,165	21,598
販売費及び一般管理費	1, 2 11,508	1, 2 12,308
営業利益	6,656	9,290
営業外収益		
受取利息及び受取配当金	1 282	1 347
為替差益	493	521
その他	1 287	1 258
営業外収益合計	1,063	1,127
営業外費用		
支払利息	110	83
その他	83	203
営業外費用合計	193	286
経常利益	7,526	10,131
特別利益		
投資有価証券売却益	-	2
その他	549	2
特別利益合計	549	4
特別損失		
固定資産処分損	3 237	3 552
その他	165	9
特別損失合計	403	561
税引前当期純利益	7,673	9,574
法人税、住民税及び事業税	3,105	3,248
過年度法人税等	-	2,612
法人税等調整額	444	157
法人税等合計	2,661	6,017
当期純利益	5,011	3,556

【株主資本等変動計算書】

第130期(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

(単位 百万円：未満切捨て)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
						固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	17,989	13,878	0	13,879	1,072	296	17,780	1,578	20,726
当期変動額									
剰余金の配当								1,168	1,168
固定資産圧縮積立金 の取崩						15		15	-
当期純利益								5,011	5,011
別途積立金の積立							-	-	-
自己株式の取得									
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	15	-	3,857	3,842
当期末残高	17,989	13,878	0	13,879	1,072	281	17,780	5,435	24,569

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	195	52,400	167	-	167	52,567
当期変動額						
剰余金の配当		1,168				1,168
固定資産圧縮積立金 の取崩		-				-
当期純利益		5,011				5,011
別途積立金の積立		-				-
自己株式の取得	1	1				1
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			275	7	283	283
当期変動額合計	1	3,840	275	7	283	4,124
当期末残高	197	56,241	443	7	450	56,692

第131期(自 平成25年 4 月 1 日 至 平成26年 3 月31日)

(単位 百万円：未満切捨て)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計
						固定資産 圧縮積立金	別途積立金	繰越利益 剰余金	
当期首残高	17,989	13,878	0	13,879	1,072	281	17,780	5,435	24,569
当期変動額									
剰余金の配当								1,753	1,753
固定資産圧縮積立金 の取崩						11		11	-
当期純利益								3,556	3,556
別途積立金の積立							2,800	2,800	-
自己株式の取得									
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	-	-	-	11	2,800	984	1,803
当期末残高	17,989	13,878	0	13,879	1,072	269	20,580	4,451	26,372

	株主資本		評価・換算差額等			純資産合計
	自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	197	56,241	443	7	450	56,692
当期変動額						
剰余金の配当		1,753				1,753
固定資産圧縮積立金 の取崩		-				-
当期純利益		3,556				3,556
別途積立金の積立		-				-
自己株式の取得	4	4				4
株主資本以外の項目 の当期変動額（純額）			196	9	186	186
当期変動額合計	4	1,799	196	9	186	1,986
当期末残高	201	58,040	639	1	637	58,678

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式及び関連会社株式 移動平均法による原価法

其他有価証券

時価のあるもの 期末日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの 移動平均法による原価法

(2) デリバティブの評価基準

デリバティブ 時価法

(3) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

商品及び製品、仕掛品、原材料 総平均法による原価法

(貸借対照表価額については収益性の低下に基づく簿価切下げの方法)

貯蔵品 移動平均法による原価法

2 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定額法

(2) 無形固定資産

定額法

なお、自社利用ソフトウェアの耐用年数については、社内における利用可能期間（５年）に基づく定額法によっております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与の支出に充てるため、翌事業年度の支給見込額のうち当事業年度の負担額を計上しております。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、役員賞与支給見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(4) 修繕引当金

水島工場の定期修理に要する修繕費用の支出に備えるため、その発生見込額のうち当事業年度負担額を計上しております。

(5) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(4年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用は、その発生時における従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(4年)による定額法により費用処理することとしております。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) ヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

繰延ヘッジ処理を採用しております。なお、金利スワップについては、特例処理の要件を満たしている場合は特例処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

ヘッジ手段	ヘッジ対象
為替予約	外貨建金銭債権・債務
金利スワップ	借入金利息

ヘッジ方針

当社は、外貨建金銭債権債務に係る為替相場の変動リスクを回避する目的で為替予約取引を、将来の市場金利変動リスクの回避または金利負担の低減を図る目的で金利スワップ取引を行っております。

当社は、デリバティブ取引の限度額を実需の範囲とする方針であり、投機目的のデリバティブ取引は行わないものとしております。

(2)消費税等の会計処理

消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(会計方針の変更)

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、従来、有形固定資産の減価償却方法については、原則として定額法を採用するとともに、「OPLフィルム」製造設備等の一部の有形固定資産については定率法を採用していましたが、当事業年度より定額法に変更しております。

当社は既に公表している中期経営計画「Double 1 5 (ダブルフィフティーン)」で掲げた目標を達成するため、平成24年度において「OPLフィルム」製造設備の安定供給体制の構築を中心とした設備投資計画の見直しを実施しました。この見直しを契機とし、従前まで定率法を採用していた有形固定資産についても、今後は安定的に収益貢献が期待できること及び安定的に稼働することが見込まれることから、当該設備の収益獲得能力についても均等に期間配分することが望ましいと判断し、当事業年度より減価償却方法を定額法に統一することとしました。

これにより従来の方法に比べて、当事業年度の営業利益、経常利益及び税引前当期純利益はそれぞれ6億6百万円増加しております。

(表示方法の変更)

貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、有形固定資産等明細表、引当金明細表については、財務諸表等規則第127条第1項に定める様式に基づいて作成しております。

また、財務諸表等規則第127条第2項に掲げる各号の注記については、各号の会社計算規則に掲げる事項の注記に変更しております。

以下の事項について、記載を省略しております。

- ・財務諸表等規則第8条の6に定めるリース取引に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第26条の2に定める減価償却累計額に減損損失累計額が含まれている旨の注記については、同条第5項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第68条の4に定める1株当たり純資産額の注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第75条第2項に定める製造原価明細書については、同ただし書きにより、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第80条に定めるたな卸資産の帳簿価額の切り下げに関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第86条に定める研究開発費の注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の2に定める1株当たり当期純損益金額に関する注記については、同条第3項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第95条の5の3に定める潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額に関する注記については、同条第4項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第107条に定める自己株式に関する注記については、同条第2項により、記載を省略しております。
- ・財務諸表等規則第121条第1項第1号に定める有価証券明細表については、同条第3項により、記載を省略しております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務は次のとおりであります(区分掲記されたものを除く)。

	第130期 (平成25年 3 月31日)	第131期 (平成26年 3 月31日)
短期金銭債権	7,466百万円	6,189百万円
長期金銭債権	603百万円	—
短期金銭債務	4,508百万円	4,493百万円

2 保証債務(保証予約含む)

下記の銀行借入金ならびに銀行信用状および買掛金等に対して保証しております。

		第130期 (平成25年 3 月31日)	第131期 (平成26年 3 月31日)
在外子会社	買掛金等	12,981百万円	3,906百万円
		(2,808千ユーロ) (109,210千ドル) (2,370百万円)	(2,299千ユーロ) (28,424千ドル) (655百万円)
		1,677百万円	1,852百万円
		(10,000千ユーロ) (5,000千ドル)	(18,000千ドル)
	借入金		
		1,455百万円	1,730百万円
		(10,100千ポンド)	(10,100千ポンド)
	銀行信用状		
		464百万円	396百万円
	従業員住宅購入資金		

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	第130期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	第131期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
営業取引による取引高		
売上高	16,325百万円	16,741百万円
営業費用	13,710百万円	15,896百万円
営業取引以外の取引高	197百万円	306百万円

2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額ならびにおおよその割合は、次のとおりであります。

	第130期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	第131期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
運賃諸掛	1,973百万円	2,066百万円
給料及び手当	1,906百万円	2,158百万円
研究開発費	3,377百万円	3,445百万円
おおよその割合		
販売費	23%	22%
一般管理費	77%	78%

3 固定資産処分損の内訳は、次のとおりであります。

	第130期 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)	第131期 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)
建物	60百万円	52百万円
構築物	20百万円	314百万円
機械及び装置	136百万円	158百万円
その他	19百万円	28百万円

4 過年度法人税等

当社と米国・英国両製造子会社との技術料収入取引に関し、大阪国税局より移転価格税制に基づく更正処分の通知を受ける見込みとなったことから見積り計上しております。

(追加情報)

平成26年5月27日に更正通知を受領しましたが、追加納税額と見積計上額との差異は軽微でありました。当社は本更正処分を承服しがたく、同日付で異議申立を行っております。また、二重課税解消の観点から租税条約に基づく日米・日英当局間の相互協議の申請を行う予定です。

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式

(単位：百万円)

区分	第130期 (平成25年 3 月31日)	第131期 (平成26年 3 月31日)
(1) 子会社株式	15,113	15,113
(2) 関連会社株式	0	0
計	15,113	15,113

上記については、市場価格がありません。したがって、時価を把握することが極めて困難と認められるものであります。

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	第130期 (平成25年 3 月31日)	第131期 (平成26年 3 月31日)
繰延税金資産		
退職給付引当金	1,823百万円	1,765百万円
賞与引当金	436百万円	446百万円
試作費用	153百万円	190百万円
投資有価証券評価損	181百万円	181百万円
固定資産撤去費	92百万円	164百万円
未払事業税	227百万円	154百万円
その他	834百万円	682百万円
繰延税金資産小計	3,750百万円	3,586百万円
評価性引当額	177百万円	177百万円
繰延税金資産合計	3,573百万円	3,409百万円
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	245百万円	353百万円
固定資産圧縮積立金	156百万円	149百万円
その他	17百万円	12百万円
繰延税金負債合計	418百万円	514百万円
繰延税金資産の純額	3,155百万円	2,894百万円

(注) 繰延税金資産の純額は、貸借対照表の以下の項目に含まれております。

	第130期 (平成25年 3 月31日)	第131期 (平成26年 3 月31日)
流動資産—繰延税金資産	1,234百万円	1,053百万円
固定資産—繰延税金資産	1,921百万円	1,841百万円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の主な項目別内訳

	第130期 (平成25年 3 月31日)	第131期 (平成26年 3 月31日)
法定実効税率	38.0%	38.0%
(調整)		
交際費等の永久に損金に算入されない項目	0.8%	0.8%
受取配当金等の永久に益金に算入されない項目	1.0%	1.1%
税率変更による期末繰延税金資産の減額修正	—	0.9%
税額控除	3.3%	2.2%
住民税均等割等	0.3%	0.3%
評価性引当額の増減	0.1%	0.0%
過年度法人税等	—	27.3%
その他	0.1%	1.1%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	34.7%	62.9%

3 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(平成26年法律第10号)が平成26年3月31日に公布され、平成26年4月1日以後に開始する事業年度から復興特別法人税が課されないことになりました。これに伴い、繰延税金資産及び繰延税金負債の計算に使用する法定実効税率は平成27年3月31日までに解消が見込まれるものについては、38.0%から35.6%に変更しております。

なお、平成27年4月1日以後開始する事業年度において解消が見込まれる一時差異等についての繰延税金資産及び繰延税金負債を計算する法定実効税率の変更はありません。

この法定実効税率の変更により、当事業年度末の繰延税金資産の金額は87百万円減少し、法人税等調整額が87百万円増加しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却 累 計 額
有形 固定 資産	建物	7,532	249	18	541	7,221	10,717
	構築物	3,105	468	10	253	3,310	7,101
	機械及び装置	12,278	1,575	50	2,774	11,028	66,271
	車両運搬具	64	42	0	34	71	288
	工具、器具及び備品	1,388	585	3	535	1,434	6,035
	土地	3,549	—	—	—	3,549	—
	リース資産	—	645	—	17	627	17
	建設仮勘定	2,009	8,422	4,000	—	6,431	—
	計	29,929	11,988	4,085	4,157	33,675	90,432
無形 固定 資産	特許権	—	—	—	1	7	672
	ソフトウェア	—	—	—	61	220	164
	施設利用権	—	—	—	0	19	1
	その他	—	—	—	—	82	—
	計	281	114	2	63	330	838

(注) 1 有形固定資産の「当期増加額」のうち主なものは、次のとおりであります。

建設仮勘定 O P L フィルム生産設備 4,566百万円

2 無形固定資産の金額が資産総額の1%以下であるため、「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

3 「減価償却累計額」の欄には、減損損失累計額が含まれております。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

区分	当期首残高	当期増加額	当期減少額 (目的使用)	当期減少額 (その他)	当期末残高
貸倒引当金	24	0	—	—	25
賞与引当金	1,151	1,255	1,151	—	1,255
役員賞与引当金	70	90	70	—	90
修繕引当金	701	372	701	—	372

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当社の公告方法は、電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載する方法により行います。 公告掲載URL (http://www.nichigo.co.jp/)
株主に対する特典	なし

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書 及びその添付書類、 確認書	事業年度 (第130期)	自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日	平成25年 6 月20日 関東財務局長に提出。
(2) 内部統制報告書			平成25年 6 月20日 関東財務局長に提出。
(3) 四半期報告書 及び確認書	事業年度 (第131期第 1 四半期)	自 平成25年 4 月 1 日 至 平成25年 6 月30日	平成25年 8 月 7 日 関東財務局長に提出。
	事業年度 (第131期第 2 四半期)	自 平成25年 7 月 1 日 至 平成25年 9 月30日	平成25年11月 6 日 関東財務局長に提出。
	事業年度 (第131期第 3 四半期)	自 平成25年10月 1 日 至 平成25年12月31日	平成26年 2 月10日 関東財務局長に提出。
(4) 臨時報告書	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 9 号の 2 (株主総会における議決権行使の結果)の規 定に基づく臨時報告書		平成25年 6 月21日 関東財務局長に提出。
	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 9 号の 2 (代表取締役の異動)の規定に基づく臨時報 告書		平成25年11月21日 関東財務局長に提出。
	企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第 2 項第 12号及び第19号(提出会社の財政状態、経営成績及び キャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事 象)の規定に基づく臨時報告書		平成26年 2 月27日 関東財務局長に提出。
(5) 有価証券報告書の訂正 報告書及び確認書	事業年度 (第130期)	自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日	平成25年12月20日 関東財務局長に提出。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成26年 6月19日

日本合成化学工業株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 川 佳 男

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 秀 男

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本合成化学工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本合成化学工業株式会社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

会計方針の変更に記載されているとおり、会社および国内連結子会社においては、従来、有形固定資産の減価償却方法については、原則として定額法を採用するとともに、「OPLフィルム」製造設備等の一部の有形固定資産については定率法を採用していたが、当連結会計年度より定額法に変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、日本合成化学工業株式会社の平成26年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、日本合成化学工業株式会社が平成26年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- () 1 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。

独立監査人の監査報告書

平成26年 6月19日

日本合成化学工業株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 川 佳 男

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 山 本 秀 男

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている日本合成化学工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの第131期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本合成化学工業株式会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

強調事項

会計方針の変更に記載されているとおり、会社は、従来、有形固定資産の減価償却方法については、原則として定額法を採用するとともに、「OPLフィルム」製造設備等の一部の有形固定資産については定率法を採用していたが、当事業年度より定額法に変更している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 XBRLデータは監査の対象には含まれておりません。